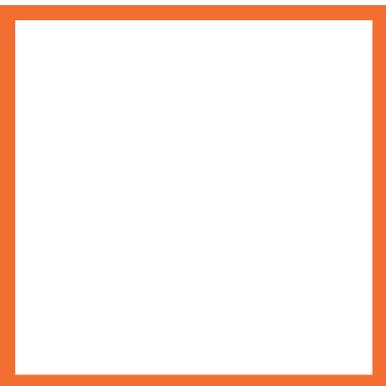
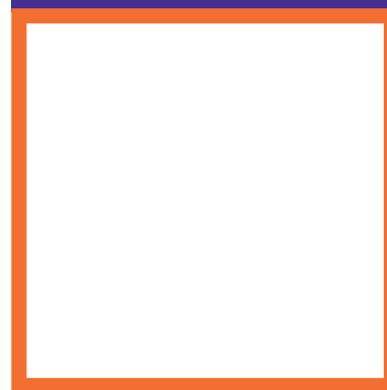


# 2022年度 活動報告書

Vol.  
17



## 「2022年度 活動報告書」の刊行に寄せて

ボランティアセンター長 松村吉信

2005年4月に大阪府内で初めてボランティアセンターを開設した関西大学は、2023年4月に17年目を迎えることができました。ボランティア活動が座学では得られない心の成長を促す活動であるとしてその活動に魅力を感じ、これまで多くの学生が参加してまいりました。これも関係各位の多大なるご支援やご協力の賜物と感謝申し上げます。

ボランティアセンターには、学生目線に基づいて社会や学生の関心を理解したうえでの企画、運営を行うことを目的として、学生スタッフを擁しております。環境保全に関すること、地域貢献に関すること、子どもに関すること、連携協定等に基づくこと、防災に関することなど、多彩なテーマの体験プログラムや講座を準備し、ボランティアの魅力を広める活動を行っております。ボランティア活動に参加する学生の動機は、①ボランティア活動を通じて社会に貢献したい、②ボランティア活動を通じて多様な人々とのつながりを得たい、③ボランティア活動を通じて知見を広めたい、など様々で、当センターはこれまで、一人でも多くの関大生がボランティア活動に魅力を感じ、最初の一步を踏み出せるように、各種取り組みを行ってきました。2022年度も、2020年2月から続く新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、対面活動を一部再開するとともに、他の課外活動でも取り組みが進んだオンラインツールを利用した活動を積極的に取り入れ、多くの講座や報告会、高齢者施設の入居者との交流プログラムなどをZoomで実施しました。さらに、11月にボランティア活動サポート募金を開設し、本センターの活動に参加する学生へのサポート強化に向けた取り組みも開始いたしました。

なお、以下に対面実施した活動の一例を紹介します。

- (1) 法政大学主催3大学（法政大学・明治大学・関西大学）連携事業として、富士山自然保護ボランティアツアーとして、静岡県富士宮市にある世界遺産の富士山の麓における森林整備事業に参加し、草木の伐採や薪割り、枯れ木処理を行いました。
- (2) 公益財団法人電通育英助成事業（2020～2021年度助成）終了後に、3大学（法政大学・明治大学・関西大学）連携事業として、「琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える環境ボランティアの未来2022（実践編）～」と題し、法政大学の学生ボランティアとともに滋賀県長浜市の南浜漁港にて、船の出港を妨げている特定外来生物ナガエツルノゲイトウの駆除活動を行いました。
- (3) 大学昇格100周年記念事業として、経済学部と商学部の学び舎である千里山キャンパス第2学舎1号館前の広場を、山岡順太郎の胸像とともにリニューアルすることとなったため、花壇の花植え活動を実施しました。

当センターは、各キャンパスが立地する吹田市・高槻市・堺市の行政や市民団体とも連携し、様々なボランティア活動にも積極的に取り組んでおります。

詳細については、本報告書をご覧ください。2022年度から、より読みやすくするため、本冊子体の体裁を工夫いたしました。

今後のボランティアセンターの多彩な活動と新たなチャレンジに対し、益々のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

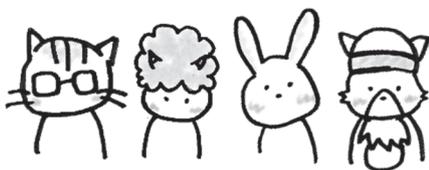
# 目 次

2022年度のボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて      ボランティアセンター長 松村 吉信

I	2022年度ボランティアセンターについて	
1	ボランティアセンターの概要	1
	(1) ボランティアセンターとは	1
	(2) 2022年度新しい取り組み	2
	(3) ボランティアセンター学生スタッフの育成・支援	3
2	2022年度ボランティアセンター事業報告	7
	(1) 環境保全事業	8
	(2) 連携事業	9
3	各種講座	14
4	堺市との地域連携事業におけるボランティア活動（事務局：堺キャンパス事務室）	22
II	ボランティアセンター学生スタッフについて	
1	ボランティアセンター学生スタッフの概要	25
	(1) ボランティアセンター学生スタッフの活動	25
	(2) ボランティアセンター学生スタッフの運営	30
2	ボランティアセンター学生スタッフ事業報告	31
	(1) 学生スタッフ企画	31
	(2) ボランティア体験ツアー	35
	(3) 雨天中止事業	56
3	学生スタッフ代表からの一言	57
III	学内ボランティア団体について	
1	学内ボランティア団体への支援	59
2	学内ボランティア団体の活動	61
IV	広報活動	71
V	資料	75
VI	ボランティアセンター紹介記事	83

# I 2022年度ボランティアセンターについて

- 1 ボランティアセンターの概要
  - (1) ボランティアセンターとは
  - (2) 2022年度新しい取り組み
  - (3) ボランティアセンター学生スタッフの育成・支援
- 2 2022年度ボランティアセンター事業報告
  - (1) 環境保全事業
  - (2) 連携事業
- 3 各種講座
- 4 堺市との地域連携事業におけるボランティア活動  
(事務局：堺キャンパス事務室)

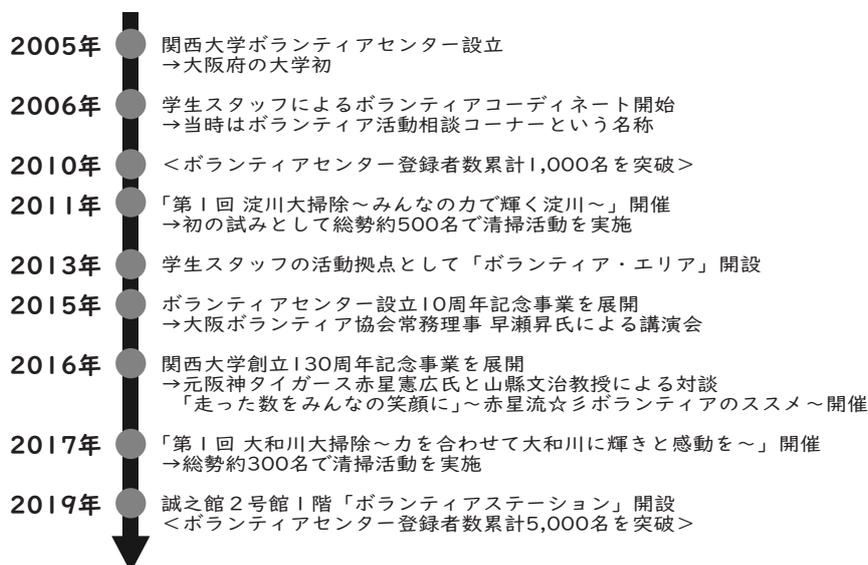




# I 2022年度ボランティアセンターの事業について

## I ボランティアセンターの概要

### (1) ボランティアセンターとは

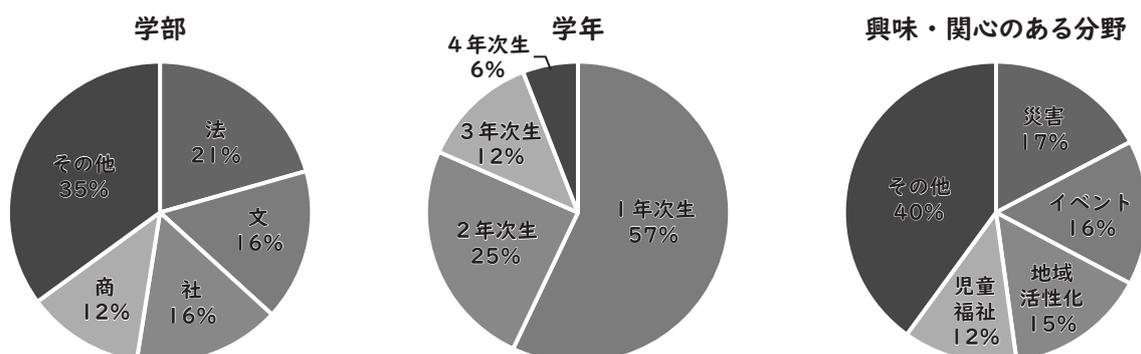


2005（平成17）年4月1日、関西大学ボランティアセンターは、本学学生の公益に適った社会参画活動の支援を目的に、学生の自主性と社会性の涵養に資するために開設された。大阪府内初の大学ボランティアセンターであり、当時、「ボランティアセンター」という組織が設置されている大学は全国的にも希少で、大学業務としては全く未知の分野であった。設立当初は約20名の有志の学生スタッフとともに、手探りながらボランティアセンターの礎を築いた。

情報機器の普及などにより人と直接的に関わる機会が少なくなりつつある現代において、ボランティア活動を通じてさまざまな人と交流し、多くの価値観に触れ、仲間と協力し何かを成し遂げることは、学生にとって貴重な気づきと成長の機会となる。また、全ての関大生が豊かな人間性を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる学生となるよう、ボランティアセンターは支援活動を広げ、大学の重要な柱となるように掲げた。

ボランティアセンターでは、凜風館1階ボランティアセンターまたは誠之館2号館1階ボランティアステーションに来室した学生およびGoogleフォームからボランティア体験ツアーに申込みをした学生に、「ボランティアセンター来室カード」の記入をお願いしている。来室した際、ボランティアセンターが運用しているLINEやInstagram等SNSの案内も行っている。

2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けながらも、391名の来室および登録があった（累計5,843名）。



## (2) 2022年度新しい取り組み

### ① ボランティア活動サポート募金の開始

ボランティア活動の経験は、社会貢献活動への意識を向上させ、自主性や社会性などを養い、正課授業とは異なる学びを得ることができる。そのためボランティアセンターでは、学生スタッフとともに多彩なテーマのボランティアプログラムを数多く企画・運営し、本学学生にボランティアに参加してもらえるようにその魅力を広める活動を行っている。

一方で、交通費等の活動経費の負担が活動の継続および拡大を難しくしている一面がある。そこで、本センターの活動に理解を示し、賛同してくれる方々から寄付を募り、活動に対して助成を行うこととなった。

### ② 非常食配布活動

2022年5月、公益社団法人日本非常食推進機構より防災意識の向上と食品ロス削減のため、使用期限が迫った非常食（防災備蓄品）の提供を受けた。あわせて持続可能な開発目標（SDGs）の目標12「つくる責任 つかう責任」の達成への貢献を目指し、ボランティアセンターでは学生スタッフが企画・運営するボランティア体験ツアーや、ボランティアに関する講座の会場などでこれらを配布した。



非常食を配布している様子

### ③ ボランティアWEEKの実施

本学学生にボランティアについてもっと詳しく知ってもらうため、春学期<5月9日（月）～15日（日）>と秋学期<10月10日（月）～16日（日）>の一週間、集中的にボランティア体験ツアーや、ボランティアに関する講座を実施した。

**ボランティアWEEK 2022**  
こんな方必見！  
5月9日（月）～15日（日）  
講座・ボランティア体験ツアー  
期間中毎日実施します！！

9日（月）  
ボラCAFE（献血）：ボランティア入門講座「ボランティアセミナー2022」講師：石井祐理子氏

10日（火）  
献血呼びかけボランティア

11日（水）  
ボラCAFE（災害）

12日（木）  
関大クリーン大作戦（関大前）環境講座  
「関大生が考える環境ボランティアの未来」講師：原田 禎夫氏

13日（金）  
ボランティア懇談会  
関大花植えボランティア

14日（土）  
高槻花植えボランティア

15日（日）  
関大クリーン大作戦in梅田

各詳細・申し込み方法はHP・LINE・Instagramを必ずチェックしてください！  
関西大学ボランティアセンター

春学期

日程	事業名
5月9日（月）	テーマ別講座「～知る！聴く！広がる！～ボラcafé2022」（第1回：献血） ボランティア入門講座「ボランティアセミナー2022」
5月10日（火）	献血呼びかけボランティア
5月11日（水）	テーマ別講座「～知る！聴く！広がる！～ボラcafé2022」（第2回：災害）
5月12日（木）	関大クリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう！～ テーマ別講座「関大生が考える環境ボランティアの未来～未来のために知っておきたい海とプラスチックの話～」
5月13日（金）	ボランティア懇談会 関大花植え活動（大学昇格100年記念）
5月14日（土）	高槻景観美化ボランティア
5月15日（日）	関大クリーン大作戦in梅田

## 秋学期

日 程	事 業 名
10月10日(月)	非常食配布活動
10月11日(火)	テーマ別講座「～知る!聴く!広がる!～ボラcafé2022」(第1回:防災) 下校見守り活動(～14日)
10月12日(水)	献血呼びかけボランティア テーマ別講座「避難所運営疑似体験(HUG)」
10月13日(木)	関大クリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう!～ テーマ別講座「～知る!聴く!広がる!～ボラcafé2022」(第2回:動物愛護)
10月14日(金)	2022ボランティア新企画募集～あなたの想いを伝えよう～(結果発表)
10月15日(土)	関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～
10月16日(日)	琵琶湖ツーリズム!～大学生で考える環境ボランティアの未来2022(実践編)～

**(3) ボランティアセンター学生スタッフの育成・支援****① 学生スタッフとは**

ボランティアセンター学生スタッフ(以下、学生スタッフ)は、大学の組織の一員として「ボランティアセンター職員とともにセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」という理念のもと、誠之館2号館1階ボランティアステーションを拠点に、ボランティア体験ツアーの企画・運営や、月曜日から金曜日のお昼休みの時間にボランティアを紹介するボランティアコーディネート、月1回の全体ミーティングを行っている。

2022年度は新たに32名の学生スタッフを迎えた。2023年3月現在、73名(1年次生24名、2年次生18名、3年次生15名、4年次生16名)の学生がスタッフとして活躍している。

学生スタッフへの加入を希望する学生に対して、ボランティアセンター職員よりガイダンスを行っている。ガイダンスでは、ボランティアセンターの位置づけやクラブ・サークルとの違い、大学からの支援について、自分たちがボランティア活動に参加するだけの団体ではなく、ボランティアの魅力を発信する団体であることなどを中心に、ボランティア活動に関する諸注意や学生団体の運営についての説明を行っている。

**② 学生スタッフ養成講座**

学生スタッフ自身のスキルアップをめざした研修として学生スタッフ養成講座を実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年度からはZoomを活用したオンライン形式と対面形式を併用している。

**➤ コーディネート講座2022**

学生スタッフは「ボランティアの魅力を広める」という活動理念のもとボランティアコーディネートを実施している。新たに学生スタッフに加入したメンバーが実際にコーディネートを行う前に、やり方や心構えを学ぶ機会とすることを目的として開講した。

ボランティアセンター職員が講師となり、実際にボランティアコーディネートをする際に配布している資料やボランティア募集のチラシの一部を受講者に配布し、参照してもらいながらボランティアコーディネートの目的や方法の説明を行った。また、実際に行う際の練習としてワークを行い、ボランティアコーディネートのやり方や心構えを学んだ。



職員より説明している様子



ワークの様子

日 時	6月30日(木) 18時00分～19時00分
場 所	千里山キャンパス凜風館4階ミーティングルーム
講 師	ボランティアセンター職員
受講者数	学生スタッフ38名
内 容	ボランティアコーディネートの目的・方法の説明、傾聴力の養成、ペアワーク

### ➤ 自己分析講座～自分を知り、キャリアデザインを考える～

今後のキャリア、特に就職活動において、ボランティアの経験を活かせるように、今後どのような心構えで活動していけばいいのか、学生がより良い決定ができるように支援することを目的として実施した。

事前課題として、年齢ごとに「印象に残ったこと」「熱中したこと」「壁を乗り越えたこと」について書き出す人生曲線を作成し、自身の人生について振り返った。当日はそれをもとにグループワークを行った。自分のことについて語り、グループのメンバーからフィードバックを受けることで、新たな気づきを得た。

本講座を経て、学生一人ひとりが今後のキャリアを構想し、ボランティア活動及び課外活動への取り組み方を見直すきっかけとなった。また、受講した学生が所属する団体に、本講座で学んだことを活かして、より良い団体運営のきっかけに繋がることを期待する。



堀田先生 講義の様子



グループワークの様子

日 時	10月18日(火) 18時00分～19時00分
場 所	千里山キャンパス第2学舎C302教室
講 師	キャリアデザインアドバイザー 堀田 三和 氏
受講者数	35名(学生スタッフ28名、ボランティア団体所属学生7名)
内 容	自己分析やキャリアデザインについての講義、グループワーク

#### 受講者の声

- ・自分のキャリアについて考えることができ良い機会になりました。短所を無理に直す必要はなく、自分の短所と長所をしっかりと理解し、長所をどう活かしていくのか、短所とどう向き合っていくのかを考えることが大切だと学びました。(法学部・2年次生)

- ・人生曲線を描いて、山や谷でどんなことが関係するか知ることができて良かった。自己分析についてわからないことばかりだったので、どのように自分自身を見つめなおし、自身の強みや弱みを理解すればよいかを学ぶことができて良かった。(化学生命工学部・4年次生)

### ➤ サステナブルな団体運営

昨今の学生スタッフの企画・運営は、以前実施したものをただなぞっているだけで、課題の改善や計画的な準備ができていない状況にある。コロナ禍により上手く継承できていない影響もあるため、学生自身がWithコロナ・Afterコロナを意識した2022年度をリスタートの時期とし、継続的に団体を運営していくための心構え等を学ぶ必要がある。継続的に団体を運営していくために重要な①現状の課題を見抜き、それを解決する力②次の代へ伝え繋げていく力を学生スタッフだけでなく、ボランティアセンターが支援する学生団体に学んでもらうことを目的として実施した。

第1回では、「ひとつ上の企画をつくる！」をテーマにアイデアの出し方から企画立案のプロセス等などの話があった。第2回では、「引継ぎの成功と失敗の分かれ道は？」をテーマに、団体の活動や思いをどう引継ぐのかについて話をいただき、受講学生の今後の活動につながる講座となった。

両日ともグループワークを通して各団体がどのような活動を行っているのか、どのような引き継ぎをしているのかなど共有することで、横のつながりをつくる機会にもなった。



第1回 グループワークの様子



第2回 川中先生 講義の様子

**日 時** 【第1回】12月9日(金) 16時20分～17時50分

【第2回】12月21日(水) 16時20分～17時50分

**テ ー マ** 【第1回】ひとつ上の企画をつくる！

【第2回】引継ぎの成功と失敗の分かれ道は？

**場 所** 【第1回】千里山キャンパス第2学舎C302教室

【第2回】千里山キャンパス第2学舎C304教室

**講 師** 龍谷大学社会学部 准教授

シチズンシップ共育企画 代表 川中 大輔 氏

**受講者数** 【第1回】35名(学生スタッフ17名、ボランティア団体所属学生12名、ピア・コミュニティ所属学生6名)

【第2回】24名(学生スタッフ11名、ボランティア団体所属学生8名、ピア・コミュニティ所属学生5名)

**内 容** 企画立案のプロセスや団体の引継ぎについての講義、グループワーク

#### 受講者の声

- ・今回の講座を受講して、今まで行為目標に着目して企画していたと気づくきっかけになりました。今後は成果目標に目を向けて企画していきたいと思います。また、リフレーミングについて知った際、凝り固まった思考に留まらない考え方に興味を抱いたので、ぜひ団体でも応用したいと思

いました。(文学部・3年次生)

- ・企画を形にするまでに、どのように段階を踏んでいくかが分かりました。企画の作り方は今までの組み合わせだということを知り、たくさん練り考えて組み立てていけたらいいなと思いました。(環境都市工学部・1年次生)
- ・自分が引き継ぐ側になったときに大事にしないといけないことがよく分かりました。今回学んだ様々な引き継ぎ方法を実践していこうと思いました。(社会学部・2年次生)
- ・他の団体の方たちの引継ぎ方法を聞くことができるとても有意義な時間になりました。ノートを書いて渡すなど参考にしたいと思いました。(商学部・1年次生)

## 2 2022年度ボランティアセンター事業報告

	ボランティアセンター行事	
	講座・講演会等	学生スタッフの活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生ガイダンス（新入生指導行事）</li> <li>・大阪家庭少年友の会学生ボランティア募集事前説明会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生歓迎オリエンテーション</li> <li>・ボランティアフェスティバル2022～大きな一歩を踏み出せ、変われ自分～</li> <li>○関大クリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう！～</li> <li>○関大クリーン大作戦 in 高槻</li> <li>○淀川掃除</li> <li>○献血呼びかけボランティア</li> <li>・春のピア×ボラ祭り</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアセミナー2022</li> <li>・テーマ別講座「～知る！聴く！広がる！～ボラcafé2022」（全2回）</li> <li>・テーマ別講座「関大生が考える環境ボランティアの未来～未来のために知っておきたい海とプラスチックの話～」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○献血呼びかけボランティア</li> <li>○関大クリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう！～（雨天中止）</li> <li>・ボランティア懇談会</li> <li>○関大花植え活動（大学昇格100年記念）</li> <li>○高槻景観美化ボランティア</li> <li>○関大クリーン大作戦 in 梅田</li> <li>○関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃活動～</li> <li>・法政大学主催3大学連携事業 富士山自然保全ボランティアツアー</li> <li>○関西大学×法政大学 スポーツゴミ拾い</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪家庭少年友の会学生ボランティアオリエンテーション</li> <li>・コミュニケーションスキルアップ講座「ほめる達人」講座（全3回）</li> <li>・学生スタッフ養成講座「コーディネート講座2022」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1000000人のキャンドルナイト 茶屋町スロウデイ2022</li> <li>○大和川掃除</li> <li>○献血呼びかけボランティア</li> <li>○関大クリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう！～</li> <li>○吹田くわい植え付けボランティア</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害ボランティアガイダンス2022</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・びわ湖を美しくする運動</li> <li>・2022ボランティア新企画募集～あなたの想いを伝えよう～（～10/13）</li> </ul>
8月		
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3大学連携オンライン講座「琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える環境ボランティアの未来2022～」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ようこそ！関大サロンへ</li> <li>・学生スタッフ養成合宿（夏）</li> <li>○飛鳥鳥の回廊2022～明日香をともす「和」のひかり～</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別講座「～知る！聴く！広がる！～ボラcafé2022」（全2回）</li> <li>・テーマ別講座「避難所運営疑似体験（HUG）」</li> <li>・学生スタッフ養成講座「自己分析講座～自分を知り、キャリアデザインを考える～」</li> <li>・大阪家庭少年友の会学生ボランティア情報交換会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちFUNまつり in 関西大学2022 子ども店長サポートボランティア</li> <li>・非常食配布イベント</li> <li>○下校見守り活動</li> <li>○献血呼びかけボランティア</li> <li>○関大クリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう！～</li> <li>○関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃活動～</li> <li>○琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える環境ボランティアの未来2022（実践編）～</li> <li>○淀川掃除</li> </ul>
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>○2022年度学園祭「環境問題ってなんだろう？～クイズで！ゲームで！楽しく学ぼう！～」</li> <li>○千里キャンドルロード2022</li> <li>○関大クリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう！～</li> <li>○献血呼びかけボランティア</li> <li>○関大クリーン大作戦 in 梅田</li> <li>○高槻景観美化ボランティア</li> <li>○関大クリーン大作戦 in 高槻</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生スタッフ養成講座「サステナブルな団体運営」（全2回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○献血呼びかけボランティア</li> <li>○吹田くわい収穫ボランティア</li> <li>○関大クリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう！～</li> <li>・淀川大塚地区魅力発見プロジェクト「西中島クリスマスマーケット2022」（雨天中止）</li> </ul>
1月		
2月		<ul style="list-style-type: none"> <li>○第4回大和川大掃除～未来につなげよう300人の小さな一歩～（雨天中止）</li> <li>○大阪マラソン2023給水ボランティア</li> <li>・淀川大塚地区魅力発見プロジェクト「さくらであい館イルミネーション」</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪家庭少年友の会学生ボランティア活動報告会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会及び交流会</li> <li>・淀川大塚地区魅力発見プロジェクト「オオツカザダンカイ」</li> <li>・学生スタッフ養成合宿（春）</li> <li>○飛鳥ハーフマラソン2023給水ボランティア</li> <li>○関西大学×法政大学 スポーツゴミ拾い</li> <li>・ようこそ！関大サロンへ</li> <li>○子ども遊びボランティア in まちなかりビング北千里</li> <li>・関西大学×関西学院大学 活動報告交流会</li> </ul>

(注) 学生スタッフの活動○印はボランティア体験ツアーを示す

ボランティアセンターでは、関西大学が掲げるカーボンニュートラルに貢献できる人材育成をめざし、本学学生が環境意識を高めるきっかけづくりとして、環境保全活動への参加及び参画機会を促進するための環境保全事業を実施している。

## (1) 環境保全事業

### ① 淀川掃除

2007年5月11日に市民団体である「淀川掃除に学ぶ会」の会長から、同会が毎月第1日曜日に実施している淀川掃除のボランティア募集についての協力依頼があった。同年8月にボランティアセンター職員とともに活動に参加して以降、関大生に対して行う「ボランティア体験ツアー」と位置づけ、これまで継続して実施している。

2011年1月21日には、本センター学生スタッフが国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所より「淀川サポーター※」に認定された。また、本事業が2011年度で5年目を迎えた記念として、本学と連携協定を締結しているミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て、「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」を300名規模で6年に渡り開催した。その後、大掃除の場所を大和川に移したことから、2017年度以降は淀川掃除として年に複数回実施している。

参加者数は2022年度末に累計で約7,100名となった。関大生にとって「気軽に参加できるボランティア」であり、親しみのある活動として定着している。

※淀川サポーターとは：淀川サポート制度のもと、淀川河川事務所が管理する一定区間で定期的に清掃など環境保全整備活動を行っている団体を認定し、支援する制度。清掃道具の貸し出しなどの支援が受けられる。



10月 清掃の様子



10月 清掃の様子

### ② 大和川大掃除

2007年度から行ってきた淀川掃除と、2011年度から開催している年1回の淀川大掃除で継続的に活動を続けてきたことが実を結び、清掃エリアのゴミが大人数で掃除する必要がないほどにまで減少した。

これにより、2017年度から、大掃除の場所を淀川河川敷から本学堺キャンパスの近くを流れる大和川河川敷へと移すこととなり、2018年度の参加者は500名を超えた。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、3年ぶりとなった2021年度は、規模を縮小して約80名の参加があった。2022年度「第4回大和川大掃除～未来につなげよう300人の小さな一歩～」を開催する予定だったが、雨天のため中止となった。

### ③ 琵琶湖の保全活動

ボランティアセンター開設時より清掃ボランティアに取り組み、多くの関大生が環境について考える場となった「淀川」の源流が琵琶湖である。この他、芥川（高槻市）の清掃やアユの産卵場整備、特定外来生物ミズヒマワリの駆除活動など、琵琶湖を源流とする淀川水系で多様なボランティア活動を展開して



びわ湖を美しくする運動 駆除活動の様子

きた。2017年度には「認定NPO法人びわこ豊穰の郷」が取り組んでいる特定外来生物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動に参加した。

公益財団法人電通育英会の助成事業に2020年度の助成事業に採択された『琵琶湖の生態系を守るために、「オオバナミズキンバイ」の駆除活動及び清掃活動を行い、関西大学、法政大学、明治大学の学生が共同し、理論と実践から環境保全活動の未来を考える。』をテーマとする活動は、2020年度末までの実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、活動は2021年度に繰り延べた。

助成事業は2021年度で終了したが、2022年度も3大学連携事業として琵琶湖の保全活動に引き続き取り組んでいる。



琵琶湖ツーリズム！ 駆除活動の様子

日程	事業名
7月1日(金)	びわ湖を美しくする運動
9月14日(水)	3大学連携オンライン講座「琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える環境ボランティアの未来2022～」
10月11日(火)	琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える環境ボランティアの未来2022（実践編）～事前説明会
10月16日(日)	琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える環境ボランティアの未来2022（実践編）～

## (2) 連携事業

### ① 奈良県明日香村との地域連携事業

明日香村は数々の日本の歴史的遺産を保有する地域である。1972年の高松塚古墳の発掘調査は、本学の故 網干名誉教授(明日香村名誉村民)の指揮のもと行われ、石室や壁画の発見をはじめとして、本学が明日香村と長きにわたり親密な関係を築く礎となった。

2006年に改めて締結された「明日香村と関西大学との地域連携に関する協定」に基づき、継続的な事業として連携を深めている。

#### ➤ 飛鳥光の回廊

2011年度に本学地域連携センターを通じて学生ボランティアの協力依頼があり、明日香村の各地をキャンドルでライトアップする「飛鳥光の回廊」に毎年参加していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年振りの参加となった。2022年度は「明日香をともし「和」のひかり」をテーマに実施した。



飛鳥光の回廊



キャンドルを並べている様子

➤ 飛鳥ハーフマラソン

2021年度に明日香村で初めて開催された飛鳥ハーフマラソンに、引き続き2022年度も給水ボランティアとして参加した。



給水ボランティアの様子

② 淀川河川事務所との連携事業

2022年10月、淀川河川事務所より「淀川大塚地区魅力発見プロジェクト」への協力依頼があり、長年にわたって淀川掃除に取り組んできた縁や、学生スタッフが淀川サポーターとして認定されていることから本プロジェクトへ参画することとなった。

➤ 西中島クリスマスマーケット2022

ジャズの生演奏やキッチンカーの販売などが楽しめるクリスマスイベントにおいて、LEDキャンドルを使ったクリスマスイルミネーションを点灯させて河川公園の魅力を発信する予定だったが、雨天のため中止となった。

➤ さくらであい館イルミネーション

クリスマスマーケットで使用する予定であったイルミネーションを活用し、宇治川と木津川が合流する背割堤地区にある「さくらであい館」開館6周年を記念して、桜色に染めるライトアップを行った。

➤ オオツカザダンカイ

大塚地区に関わりの深い方々の顔合わせと意見交換の場として開催された。当日は、20名以上が集まり各団体の活動内容や大塚地区をより盛り上げていくための意見交換を行った。座談会終了後は、希望者でワンド（湾処と呼ばれる川の水が陸地に入り込んでいる場所）を歩き、ゴミの現状などを知る機会となった。

③ NPO法人花と緑のまちづくり 高槻景観園芸クラブとの連携事業

当団体はJR高槻駅～市役所周辺、阪急高槻市駅～高槻城公園へ至る街路、高槻城公園内の花壇の植栽を行っており、高槻市内の緑化重点地区を中心に花と緑で街を彩り、景観の向上に繋がる活動をしている。高槻市からの依頼を受け、2017年度からボランティア体験ツアー「高槻景観美化ボランティア」の名のもと、地域の方との交流と活動を通して身近な環境美化について考える機会となることから、連携事業を開始した。



花壇の整備を行う様子

④ 吹田市との連携事業

2018年度より吹田市から依頼を受け、西農園のご協力のもと、吹田市の特産物である「吹田くわい」の植え付け、除草、収穫のお手伝いを行っている。2022年度は、植え付けと収穫のお手伝いを行った。



くわい植え付け作業をする様子

### ⑤ 大阪家庭裁判所との連携事業

2005年、大阪家庭少年友の会（元保護司等の団体）が実施母体となって大阪家庭裁判所において行われている「試験観察中の非行少年への学習指導」ボランティアプログラムである。当活動は開始から17年目を迎える取り組みであり、一般的なボランティアより活動の責任が重く、特別な配慮や知識が必要になるが、学生にとって非常に大きな経験となる。

当活動においては、学生にとっても真摯に取り組むインセンティブとなっており、家庭裁判所調査官と大阪家庭少年友の会の両者によって、学生たちが活動しやすいように様々な工夫を検討していただいている。

#### 学生募集及びボランティア登録のプロセス

- ①ボランティアセンターが法学部（刑事法、親族・相続法など裁判所関連）、社会学部（心理学関連）、政策創造学部（刑法、刑事政策）、大学院心理学研究科などの教員へ協力依頼を行う。
- ②教員に推薦された学生のみ、登録手続きに進む。
- ③登録した学生への大阪家庭裁判所調査官等による研修を実施する。
- ④少年の都合に合わせ活動計画を調査官とともに相談する。

年度	登録者数
2006年度	9名
2007年度	16名
2008年度	14名
2009年度	17名
2010年度	14名
2011年度	19名
2012年度	16名
2013年度	17名
2014年度	15名
2015年度	15名
2016年度	13名
2017年度	19名
2018年度	28名
2019年度	20名
2020年度	0名
2021年度	6名
2022年度	9名

#### 研修・施設見学

日程	事業内容
6月1日（水）	オリエンテーション（場所：ホテルプリムローズ大阪2階羽衣の間） <参加者数>24名（学生ボランティア7名、ボランティアセンター職員2名、友の会学生ボランティア委員13名、家庭裁判所調査官2名） <内容>調査官からの試験観察制度・少年審判・学習指導についての説明を受け、質疑応答を行った。
10月28日（金）	情報交換会（場所：オンライン（Zoom）） <参加者数>学生ボランティア3名 <内容>学習指導実績のある学生から実際の活動例と工夫を紹介し、質疑応答を行った。
3月2日（木）	活動報告会（場所：ホテルプリムローズ大阪2階鳳凰の間） <参加者数>24名（学生ボランティア4名、ボランティアセンター職員2名、友の会学生ボランティア委員16名、家庭裁判所調査官2名） <内容>学習指導実績のある学生から少年の活動内容と感想を述べあい、調査官を交えて意見交換を行った。

#### 学習指導を実施した学生ボランティアの感想

##### ○指導回数：6回（高3担当）

少年は、全日制から通信制に移った高校生で、年齢は高校3年生に該当するが、学力レベルは高校1年生レベルも難しいということでした。7月末から10月中旬まで2週間に1回程度の頻度で計6回学習指導を行い、その中で①自分で考えて解決することを体験させる ②分からないことが

あれば分からないから教えてほしいと意思表示できるようにするという2点を目的としていました。

少年が建築関係の仕事に興味があるということで、最初は数学を指導しました。それ以外にも気温や通っている学校について話すなどコミュニケーションを行い、打ち解けていきました。2回目以降は、目的である分からないことがあれば教えてほしいと意思表示できるようにするということを達成できるように、学習内容の説明を行った後は、自分で問題を解いてもらい適宜質問をしてもらうという方法で進めていきました。

今回初めての経験としては、保護者の方が家での勉強方法や少年との接し方に困るときがあるということで、調査官立ち会いのもと第3回目学習指導時の冒頭10分間の様子を見学してもらいました。

集中して学習している様子も見取ることができ、最後には少年から質問してくれるなど良い関係性を築くことができたのではないかと考えています。少年が今後どのような進路を選ぶことになっても、今回の学習指導が何か役に立っているといいなと思いました。

### ○指導回数：3回（高1担当）

初回の学習指導では、調査官が用意してくれた小学校5年生の算数の教科書から少数点のある足し算や引き算を中心に一緒に解きました。少数点の概念や、位をそろえて計算することを工夫して指導を行いました。少年は、毎回家で先に問題を解いてきてくれており、自宅でも頑張ろうとしてくれている様子が伝わり嬉しかったです。

今回の学習指導で心掛けていたことは、少年に「自分はやればできる」と自信をもってもらうように進めることです。漢字や数学に苦手意識をもっているようだったので、解けたときには「いいね」「さすが」など少年自身を褒めるように意識し、間違えたときには「この問題は難しいね」「この数字が間違っているね」と少年ではなくモノを対象に指摘するように意識しました。

少年はとても字がきれいで丁寧に書くことができ、漢字の書き順も正確で一度学んだことはできるようになるなど理解力がありません。少年は10月から学校に通い始めることが決まっています。「自分はやればできる」と信じて、これからも頑張ってもらいたいと思います。

### ○指導回数：3回（高2担当）

担当調査官と事前打合せを行い、少年の特徴を把握し、学習内容を決定しました。事前打合せによると、少年は勉強が苦手で、わかっていなくてもわかったふりをしてしまうということだったので、ひとつひとつの問題でなぜ間違ったのかだけでなく、どのようにして答えにたどり着いたのかまで確認を行うようにしました。また、勉強が楽しいと思ってもらえるように、些細なことでも褒めるように意識して取り組みました。学習指導全体の注意点として、話の中で文の主語や文そのものが長くなってしまうと話をしっかりと理解するのが難しいということで、できるだけ簡潔に具体例を用いて説明することを意識しました。

少年は対人関係に問題を抱えており、特に自分の意見をなかなか発信できないとのことでしたが、実際に会って話をしてみると、きちんと受け答えをしてくれました。しかし、「はい」「いいえ」で答えられる質問ではなく、自分の意見を言うとなると発言できない場面が見受けられたため、少年との会話の際はできるだけオープンクエスチョンを用いてやりとりを行いました。学習指導の回数を重ねるごとに、「はい」「いいえ」だけでなく、自分の考えを伝えてくれるようになり、さらには個人的なことも自分から話してくれるようになりました。初回と比べると、最後には少年との距離がかなり縮まっていたように思えて嬉しかったです。

学習に対してもとても意欲的に取り組んでくれて、わからなかった問題が解けるようになることを楽しんでくれていたように感じました。最初は苦戦していた問題も最後には自力で解けるようになっていて、勉強を教える立場として一番嬉しいことでした。今まで勉強してきたことや塾講師を続けてきた経験を活かして誰かの役に立ちたいと参加した今回のボランティアでしたが、この学習指導を通して、少年が少しでも勉強を楽しんでいると思っていていたら、また、ロールモデルとしてお手本になれていたら幸いです。

### 家庭裁判所調査官からの総括コメント

#### ○橋本調査官

大阪家庭少年友の会の学習指導ボランティアの大きな目標は「少年の立ち直りの支援」です。みなさんの発表を聞いていると、学習に対してどんどん意欲的になっている少年の様子がわかりました。

また、みなさんが少年に対してとても肯定的なまなざしをおけてくれていたんだなということを感じることができました。少年は周囲から否定的なまなざしを向けられることも珍しくありません。みなさんからの肯定的なまなざしによって、少年の中にあたたかい気持ちが残りに、学習指導の間の変化だけでなくもう少し先にでてくる良い変化があると思います。少年の今後についてみなさんにお伝えできないのが残念ではありますが、良い変化があるんだなと思って、たまに少年のことを思い出してもらえたらと思います。

※文中で女子を「少年」と表記しているが、例えば少年法では「満20歳に満たない者」を指し、児童福祉法では「小学校就学の始期から満18歳に達するまでの者」を指す。いずれも男子と女子を含んでいる。

### 3 各種講座

ボランティアセンターでは、ボランティアに関わるきっかけづくりとしての講座や、コミュニケーション能力の向上のための講座などを実施している。

#### (1) ボランティアセミナー 2022

ボランティア活動という言葉は知っていても、具体的にどのような活動なのか分からないという学生が多いと考え、活動のやりがいや楽しさを伝え、活動に対する不安や疑問を解消させることで、ボランティア活動への参加を促すことを目的として開講した。

当日はボランティアの基本的な概念や理論、講師の経験談などをお話いただいた。また、グループワークで参加学生の経験談や講座を受けた感想を共有することで、ボランティアに対しての考えを深めた。最後に、学生がボランティアセンターを気軽に利用できるように、ボランティアセンターで受けられるサービス等の紹介を行った。



日 時	5月9日(月) 16時30分～18時00分
場 所	千里山キャンパス第2学舎C506教室／オンライン (Zoom)
講 師	京都光華女子大学健康学部医療福祉学科社会福祉専攻 教授 社会福祉士 石井 祐理子 氏
受講者数	83名 (学内受講者8名、オンライン受講者6名、オンデマンド視聴69名)

#### 受講者の声

- ・色んな人と関わりがあって、自分の常識が当たり前でないと感じていたのは共感できました。(環境都市工学部・1年次生)
- ・ボランティアとは何をすることが正解なんだろうと思いついていましたが、自分ができることをする、という気づきを得られました。(社会学部・2年次生)



石井先生 講義の様子



グループワークの様子

## (2) テーマ別講座「～知る！聴く！広がる！～ボラcafé 2022」

ボランティア活動は多岐にわたるが、その背景にある社会問題等について深く知らないという学生は少なくないと思われる。そこで、平日のお昼休みに本セミナーを実施することで気軽に関心のある内容を学べる機会を創出することを目的として開講した。

各回とも30分という短い時間でありながら、講師からは興味深いお話をさせていただき、受講学生の今後のボランティア活動につながる講座となった。

日 時	【第1回】5月9日(月) 12時20分～12時50分 【第2回】5月11日(水) 12時20分～12時50分
テ ー マ	【第1回】献血 【第2回】防災
場 所	千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア
講 師	【第1回】大阪府赤十字血液センター 献血推進課 屋田 千有紀 氏 【第2回】吹田市総務部 危機管理室 大槻 仁 氏
受講者数	【第1回】11名 / 【第2回】7名

～知る！聴く！広がる！～ 2022  
**ボラcafé**

ボラcaféって??  
「気軽にボランティアについて知ってもらい」をコンセプトに平日のお昼休み(12:20～12:50)に開催します。途中入退室もOK!1回のみ受講も大歓迎です!お昼休みに気軽にボランティアについて学びませんか?

**schedule**

5月9日(月)	5月11日(水)
テーマ「献血」 講師：大阪府赤十字血液センター	テーマ「防災」 講師：吹田市危機管理室
最近できるボランティアである「献血」の必要性や、開催はしていませんか?はたして高学年の学生についてお話しを聞くことができます!	災害が多岐にわたるため対策はしていませんか?防災でどのような役割がされているのかなどお話しを聞くことができます!
時 間：お昼休み(12時20分～12時50分) 場 所：凜風館1階ピアエリア 募集人数：各回20名(先着順) 申込方法：右のQRコードよりGoogleフォームにアクセスして必要事項を記入の上、送信してください。	

2022年度 事務局ボランティアセンター

### 受講者の声

【第1回】思っていたより献血を必要とされる方がたくさんいたことに驚きました。自分は医者にはなれないけど、献血という行動で命を救えるということは大変誇らしいことだと思います。(政策創造学部・2年次生)

【第2回】この講座を受講したことで、改めて防災について考える良い機会になりました。食料を普段からローリングストックをしておくなど、もしもの場合の備えを見直そうと思います。(法学部・1年次生)



第1回 大阪府赤十字血液センター講義の様子



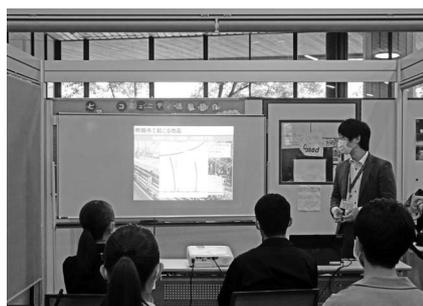
第2回 吹田市総務部 危機管理室講義の様子

- 日 時** 【第1回】10月11日（火）12時20分～12時50分  
 【第2回】10月13日（木）12時20分～12時50分
- テ ー マ** 【第1回】防災  
 【第2回】動物愛護
- 場 所** 千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア
- 講 師** 吹田市総務部 危機管理室 菊地 祥吾 氏  
 大阪ねこの会 荒井 りか 氏
- 受講者数** 【第1回】13名／【第2回】11名

**受講者の声**

【第1回】吹田市の防災について詳しく勉強できてよかったです。改めて自分の防災意識を高めるきっかけになりました。（システム理工学部・2年次生）

【第2回】今まで何となくしか知らなかったことについて、より具体的な数字を聞いたことで危機意識が高まりました。保護猫譲渡会のお手伝いなど、自分にできることを積極的に探して活動していきたいと思いました。（法学部・2年次生）



第1回 吹田市総務部 危機管理室講義の様子



第2回 大阪ねこの会講義の様子

### (3) テーマ別講座「関大生が考える環境ボランティアの未来 ～未来のために知っておきたい海とプラスチックの話～」

淀川掃除や琵琶湖湖岸の特定外来生物駆除活動などの各種プログラムを実施している中で、ゴミ問題と向き合い、環境問題について改めて学ぶことで、環境保全活動の意義を再確認することを目的として開講した。

当日は、プラスチック汚染とは何か、日本の廃棄物処理の現状や「亀岡市ゼロエミッション計画」を策定した京都府亀岡市の取り組み、世界でのレジ袋削減への取り組み等について伺った。

講演後のグループワークや質疑応答の時間を通じて、様々な視点からプラスチックゴミ問題について考える機会となった。



日 時 5月12日(木) 16時20分～17時50分

場 所 千里山キャンパス第2学舎E101教室/オンライン (Zoom)

講 師 大阪商業大学公共学部 准教授 原田 禎夫 氏

受講者数 15名 (学内受講者10名、オンライン受講者5名)

#### 受講者の声

- ・日本は世界に比べゴミの処理はしっかりしていると思っていたが、実際はその逆で世界に遅れをとっているという事実に驚きました。(システム理工学部・1年次生)
- ・海外に比べて日本の環境保全に対する意識が低いことや、鳥のおなかの中から出てきたプラスチックゴミの多くが日本からのものなどを知り、少し複雑な気持ちになりました。水筒やマイバッグを持ち歩くなど、自分に出来ることを意識的に行いたいと思います。(法学部・2年次生)



原田先生 講義の様子



グループワークの様子



## (5) 災害ボランティアガイダンス2022

コロナ禍で実際に被災地で活動を行うことはできないものの、学生の災害ボランティア活動に対する意識を高め、実際のボランティア経験を聞くことで、今後学生がより良い意思決定ができるように支援することを目的として開講した。

講演では、実際に災害ボランティア活動に参加されたときの写真や、災害ボランティア活動に参加するために必要な準備物も紹介され、参加者が現地の状況をイメージしやすい講演であった。また、災害ボランティア活動は、一般的によく聞かされ撤去だけではなく、現地にある災害ボランティアセンターの運営や補助等、いろいろな災害ボランティア活動の形があることを紹介していただいた。現地での活動に参加することに抵抗を感じている学生にとっても興味を持てる内容であった。

また、KUMCからは、2019年度以前に行った「東北ツアー」について発表があった。大学生が実際に活動した災害ボランティア活動として、参加者の意欲に繋がる機会となった。



**災害ボランティアガイダンス 2022**

◆内容:  
・ボランティアとは?  
・災害ボランティアについて  
・コロナ禍において大学生が実際に現地に  
行かなくてもできること  
・震災体験  
・災害復興支援ボランティア募集者に  
必要な学内手続きについて

◆場所:  
第2学舎C201教室/  
オンライン (ZOOM)

◆参加申し込み:  
以下のQRコードを読み取り、  
必要事項を記入のうえ送信してください

◆講師:  
紺屋 仁志 氏  
(大阪ボランティア協会)  
＜これまでで学内・学外両方で＞  
2014年 災害ボランティアセンター (東海地区)  
2015年 関東・東北復興支援 (復興財団)  
2016年 熊本復興  
2018年 小笠原島復興  
西日本復興 (岡山、広島)  
全道復興支援活動  
社会福祉法人 日本赤十字社  
東日本赤十字 (台風19号)

◆日時:  
7/6 (水)  
16:20~17:50

興味がある方は是非ご参加ください!!

日 時	7月6日(水) 16時20分~17時50分
場 所	千里山キャンパス第2学舎C201教室/オンライン (Zoom)
講 師	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 紺屋 仁志 氏 学生団体KUMC 溝端 峻 氏
受講者数	14名 (学内受講者7名、オンライン7名)

### 受講者の声

- ・意外と手続きや準備が多くて、軽い気持ちで災害ボランティアに参加するものではないのだと感じました。(化学生命工学部・1年次生)
- ・災害ボランティアの経験が、実際に自分が被災したときに役立つとおっしゃっていて、自分のために参加してもいいんだと思いました。(化学生命工学部・1年次生)
- ・災害ボランティア活動に参加することで、被災地の方にとっては寧ろ、迷惑を掛けてしまう行動がたくさんあることを知って驚きました。(社会学部・1年次生)



紺屋先生 講義の様子



紺屋先生 講義の様子

## (6) 3大学連携オンライン講座

### 「琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える環境ボランティアの未来2022～」

10月に行う駆除活動の前に、特定外来生物が環境に与える影響や現状、環境保護のために私たちができることなどを学ぶことを目的として、琵琶湖の環境保全をテーマに開講した。

講演では、主に、琵琶湖や河川などの水際に生息し、琵琶湖の生態系だけでなく地域の生活へ被害を及ぼす特定外来生物「オオバナミズキンバイ」や「ナガエツルノゲイトウ」などの特定外来生物の対策や具体的な駆除活動について、講師の経験談をまじえて分かりやすい講演であった。

終了後は法政大学と明治大学の学生も交えて小グループに分かれ、意見交換と交流の時間を設け、普段関わる機会の少ない他大学との交流の機会となった。



日 時	9月14日(水) 13時30分～15時30分
場 所	千里山キャンパス第2学舎C204教室／オンライン (Zoom)
講 師	滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課 副主幹 中井 克樹 氏
受講者数	30名 (学生スタッフ18名、法政大学10名、明治大学2名)
内 容	特定外来生物への対策と駆除活動についての講義、他大学との交流

#### 受講者の声

- ・琵琶湖の環境の状況や外来種についてたくさんの新しい学びがあり、人間がもたらした外来種の問題は人間が責任を持って解決に努めなければならないと思いました。他大学の方と関わる貴重な経験ができてよかったです。(関西大学・1年次生)
- ・外来生物、植物が全て悪いものではなく、影響力の違いによって駆除した方が良いものなどの基準があることを知りました。また、外来種を個人で所有すること自体が非常に良くないことだと分かったので、来月の活動は気を引き締めて行いたいと思います。(法政大学・4年次生)
- ・外来種という名前の括りだけで全てを排斥しないといけないと思うが、在来種であっても駆除しなくてはならないものがあること、外来種でも人の役に立っているものがあることを知り、外来種だからというだけで判断することは危険だと分かりました。(明治大学・2年次生)



中井先生 講義の様子



中井先生 講義の様子



学生スタッフよりこれまで行ってきた琵琶湖の活動について説明を行う様子

## (7) テーマ別講座「避難所運営疑似体験 (HUG)」

学生スタッフ養成合宿で行った避難所運営ゲームHUGを本学学生に向けて行うことで、広く防災意識を高めてもらうことを目的として開講した。

この疑似体験を通して、多種多様な人に寄り添うことの難しさや大切さを知り、各個人の思考力や対応力を高める機会となった。また、本学安全管理課課長にも参加していただき、学生に対して専門部署の立場から助言をいただき、より深い学びを得ることとなった。

日 時 10月12日 (水) 14時40分～16時10分

場 所 千里山キャンパス第2学舎C301教室

講 師 関西大学ボランティアセンター学生スタッフおよび職員

受講者数 8名 (本学学生7名、職員1名)



### 受講者の声

- ・地震が起こった際に何か役に立つと思ったから参加しました。次の機会があれば、もう少し深く運営について考えてみたいと思います。(法学部・3年次生)
- ・ゲームでは様々な状況の方々が登場して、災害時の事を少し考えることができました。安全管理課の方は私たち大学生にはない視点を多く持ち合わせていて、とても勉強になりました。(環境都市工学部・2年次生)



ゲーム中の机上の様子



ゲーム中の様子

#### 4 堺市との地域連携事業におけるボランティア活動（事務局：堺キャンパス事務局）

堺市と関西大学は、2008年に基本協定を締結し、2010年度から大学の教育研究活動と地域資源を融合した連携事業を実施しており、2022年度で13年目を迎えた。その中で人間健康学部の学生は、堺市の小中学校に出向き、児童生徒の運動促進を図る取り組みへの協力や、地域の子どもたちを対象としたスポーツ企画の運営など、ボランティア活動を通して講義だけでは学べない経験を積み、社会人基礎力を養っている。また、関西大学が取り組む教育研究活動の成果を社会に還元し、地域が抱える諸課題の解決に寄与している。

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア学生数 (行事参加者数)	会場
住吉祭神輿渡御ボランティア 2022	8/1 (月)※	-	住吉祭神輿渡御ボランティア	-	-	-
かんだい食堂 ～大学が提案する街中の サードプレイス～	4/5 (火)	18:00～ 19:30	あさかやま夜桜まつり @かんだい食堂	-	28名 (61名)	関西大学堺キャンパス 中央広場
	5/17 (火)	17:00～ 19:00	かんだいこども食堂 パンバイキング		29名 (22名)	関西大学堺キャンパス 食堂
	6/23 (木)		キャンプ体験をしよう @かんだい食堂		23名 (29名)	関西大学堺キャンパス 体験学習エリア、 体育館アリーナ
	7/22 (金)	15:30～ 19:00	流しそうめん @かんだい食堂		23名 (22名)	関西大学堺キャンパス 食堂、中央広場
	9/20 (火)	16:30～ 19:00	スポーツの秋！みんなで体を 動かそう！@かんだい食堂		18名 (22名)	関西大学堺キャンパス 食堂、体育館アリーナ、 中央広場
	12/12 (月)		クリスマスパーティー @かんだい食堂		18名 (34名)	関西大学堺キャンパス 食堂、中央広場
香ヶ丘商店街を中心とした 浅香山地区のまちづくり	4/24 (日)	10:00～ 12:00	スポーツ教室 小学生のための 新しい遊びの場	関西大学 人間健康学部教授 村川 治彦	15名 (21名)	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ
	5/8 (日)				8名 (8名)	
	5/22 (日)	14:00～ 16:00			12名 (10名)	
	6/12 (日)	10:00～ 12:00			9名 (13名)	
	6/26 (日)				6名 (11名)	
	7/24 (日)				6名 (15名)	
	10/2 (日)				7名 (15名)	
	10/9 (日)	15名 (14名)			関西大学堺キャンパス エバーグリーン	
	11/6 (日)	14:00～ 16:00			12名 (14名)	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ
	11/13 (日)				6名 (15名)	
	12/10 (土)				8名 (12名)	
	12/10 (土)				6名 (9名)	
	1/15 (日)	10:00～ 12:00			6名 (6名)	浅香山商店街
	1/29 (日)				5名 (11名)	
	3/26 (日)				8名	
	5/18 (水)	14:00～ 17:00			インクルーシブなまちづくり 冷やしぜんざい	8名
6/26 (日)	11:00～ 15:00	インクルーシブなまちづくり 浅香山サマーフェスタ2022	22名	浅香山商店街		

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア学生数 (行事参加者数)	会場		
香ヶ丘商店街を中心とした 浅香山地区のまちづくり	8/6 (土)※	17:00~ 20:00	インクルーシブなまちづくり 盆踊りでツナガル	関西大学 人間健康学部教授 村川 治彦	-	-		
	9/21 (水)	13:00~ 17:00	インクルーシブなまちづくり スイートポテト		5名	浅香山商店街		
	6/4 (土)	11:00~ 16:00	ミャンマー写真展 講演会とギャラリー		2名 (13名)	関西大学堺キャンパス SB301教室		
	11/25 (金)	14:40~ 16:10	「オキナワへいこう」講演会	NPO法人kokoima 廣田 安希子	64名	関西大学千里山 キャンパス 第1学舎5号館501教室		
香ヶ丘商店街を中心とした 浅香山地区のまちづくり	11/26 (土)	①10:00 ~ 12:00 ②13:00 ~ 15:00 ③15:30 ~ 17:30	こどもの居場所作り 不登校児童を対象とした eスポーツ交流会	関西大学心理学研究科教授 石田 陽彦	29名 (①16名、 ②26名、 ③10名)	関西大学堺キャンパス ラーニングコモンズ、 ユーモア科学スタジオ		
		10:30~ 11:50	不登校の児童・生徒をもつ 保護者向け講演会		29名 (18名)	関西大学堺キャンパス SA301教室		
みんなで夏の思い出を! 関大・さかい フルバリューキャンプ	※	-	フルバリューキャンプ	-	-	-		
堺市立小学校連合運動会 ボランティア活動	※	-	連合運動会ボランティア活動	-	-	-		
「新しい生活様式」と食、農、 自然を軸にした地域づくり	5/18 (水)	10:30~ 15:00	農業研修	関西大学 人間健康学部教授 村川 治彦	4名	とようけのもり		
	5/19 (木)				5名			
	5/25 (水)				8名			
	6/1 (水)				5名			
	6/9 (木)	10:30~ 16:00			6名			
	6/15 (水)	10:30~ 15:00			4名			
	6/23 (木)	10:30~ 16:00			7名			
	6/29 (水)	10:30~ 17:00			5名			
	7/7 (木)	16:30~ 20:00			4名			
	7/21 (木)	8:00~ 12:00			6名			
	7/31 (日)	10:30~ 15:00			5名			
	8/1 (月)	10:30~ 16:00			6名			
	9/8 (木)	15:00~ 18:00			5名			
	9/14 (水)	13:00~ 16:00			3名			
	9/16 (金)	8:00~ 17:00			5名 (8名)			
	2/16 (木)	1泊2日			関大SDGsラボ活動に関する 打合せ		1名	熊野出合いの里
	9/17 (土)	8:00~ 17:00			あつまれ!とようけのもり ~奈良の里山で自然体験~			
	5/16 (月) ~ 5/17 (火)							
	おでかけ「子ども食堂」で フルバリューキャンプ	※			-		フルバリューキャンプ	-

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア学生数 (行事参加者数)	会場
学生による自主防災組織の 展開	6/22 (水)	13:00~ 15:00	応急手当講習会	-	5名 (18名)	関西大学堺キャンパス SA502教室
	9/24 (土)	10:00~ 16:00	防災キャンプ	-	15名 (100名)	三宝地区
	10/15 (土)	9:00~ 14:00		合同会社グリーン ラボラトリー代表社員 一般社団法人グリーンカラー 代表理事 福島 征二	2名 (125名)	社会福祉法人 東光学園
	1/21 (土)	10:00~ 15:00		-	7名 (30名)	深井地区
在堺外国人青年との スポーツ交流事業	※	-	サッカー交流会	-	-	-
アロープロジェクトin堺市	※	-	アロー作成、設置	-	-	-
関大生と堺内の福祉事業所と 連携した授産事業商品の企画	10/27 (木)	16:00~	事業打合せ	-	9名	おおはま障害者作業所
令和4年度 体力向上推進事業	4月 ~ 3月	-	「体力向上スクールサポーター」 として、体育学習や部活動に おけるサポート、休み時間や 放課後等の時間における児童 生徒の運動促進を図る取組み をサポート	-	2名	堺市立深井小学校
					2名	堺市立鳳南小学校
					1名	堺市立宮山台小学校
					1名	堺市立五箇荘東 小学校
					2名	堺市立鳳中学校
	4/21 (木)	16:00~ 17:00	体力向上検討会議	関西大学人間健康学部教授 神谷 拓	0名 (7名)	関西大学堺キャンパス 会議室E
	1/12 (木)	15:30~ 16:30			0名 (7名)	
	3/9 (木)	15:00~ 16:30			0名 (16名)	
2月 ※	-	堺スポーツチャレンジ ランキング交流大会	-	-	-	-
3/4 (土)	13:30~ 16:30	研究発表会	-	0名 (90名)	関西大学堺キャンパス SB301教室	

(注) 開催日に※を付したものは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったもの。



スポーツ教室



小学生のための新しい遊びの場

## Ⅱ ボランティアセンター学生スタッフについて

- 1 ボランティアセンター学生スタッフの概要
  - (1) ボランティアセンター学生スタッフの活動
  - (2) ボランティアセンター学生スタッフの運営
- 2 ボランティアセンター学生スタッフ事業報告
  - (1) 学生スタッフ企画
  - (2) ボランティア体験ツアー
  - (3) 雨天中止事業
- 3 学生スタッフ代表からの一言





## II ボランティアセンター学生スタッフについて

### I ボランティアセンター学生スタッフの概要

ボランティアセンター学生スタッフ（以下、学生スタッフ）は、「関大生にボランティアの魅力を広めること」を目的として、ボランティアセンター職員とともに活動しています。

#### (1) ボランティアセンター学生スタッフの活動

##### ① 学生スタッフによるボランティアの情報紹介（ボランティアコーディネート）

本学学生の「ボランティアって何だろう?」という疑問や、「こんなボランティアをしてみたい!」などのボランティアに関する様々な相談に、学生スタッフが対応している。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020年度秋学期からはZoomを活用したオンライン・ボランティアコーディネートを開始した。さらに、2021年度秋学期からは、本センターホームページから友人と一緒に受付ができるように変更した。2022年度については、引き続きオンライン・ボランティアコーディネートを行いつつ、対面でのコーディネートを実施した。



ボランティアコーディネートをしている様子



ボランティアコーディネートをしている様子

##### ② ボランティア体験ツアーの実施

初めてボランティア活動に参加する本学学生が、気軽に一歩踏み出せるように関大生同士で活動するボランティアプログラムを企画・運営している。学生スタッフは、実施に向けてミーティングを重ねている。

2019年度から、参加申込にGoogleフォームを用いたオンラインでの参加申込みを取り入れている。

##### ③ 広報活動

学生スタッフは、ボランティア体験ツアー実施前に、学生スタッフが作成した募集に関するチラシを大学構内の掲示板に掲示したりするなど、本学学生にボランティアを始めるきっかけとなる広報活動を積極的に行っている。また、ボランティア体験ツアー実施後には、写真を交えて活動内容を掲載する「ぼらぼらblog」の更新も行っている。

そのほかにも、学生スタッフが編集委員となって年に3回ボランティアセンター機関誌「Volury」を発行している。2022年度は新入生向けにボランティアセンターや学生スタッフの紹介を掲載した春号と、秋のボランティア体験ツアーやその魅力について掲載した秋号を計2回発行した。また、発行した「Volury」は、ボラリー WEEKと称した1週間で学生スタッフによる配布活動を行った。

##### ④ 新入生に向けた広報活動

新入生を対象にボランティアセンターの認知度を高め、ボランティア活動への参加促進や新たな学生スタッフの募集を目的として行った。2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年に比べて規模を縮小した形での実施となった。

### ➤ 新入生歓迎行事

日 時	4月2日（土）、4日（月）10時00分～17時00分
場 所	千里山キャンパス誠之館2号館1階ボランティアステーション前
内 容	看板の設置・案内、ブースの設置、活動内容の説明

### ➤ ボランティアフェスティバル2022～大きな一歩を踏み出せ、変われ自分～

日 時	4月13日（水）～15日（金）12時20分～12時50分
場 所	千里山キャンパス凜風館1階学生ラウンジ
内 容	関西大学のボランティア団体の紹介、ステージ発表、大型モニターを使用した広報

### ➤ 春のピア×ボラ祭り

本学ピア・コミュニティ※と協力して、本学学生にさらにボランティア活動やピア・サポート活動に興味を持ってもらうことを目的として実施した。

ブースを設置して、興味を持ってきてくれた学生に対してボランティアセンター学生スタッフ、ピア・コミュニティ※の活動内容について説明を行った。学生スタッフとピア・コミュニティ所属学生同士で有意義な交流の時間ともなった。

※ピア・コミュニティとは、本学でピア・サポート活動を実践する小集団です。クラブ、サークル等の課外活動と同様に、1つの目標におかかって仲間同士が力を合わせて活動するだけでなく、各ピア・コミュニティがそれぞれの支援部署と連携しながら「学生が学生を支援する」活動を行っています。



日 時	4月25日（月）～28日（木）12時20分～12時50分
場 所	千里山キャンパス凜風館1階学生ラウンジ、ピアエリア
参加団体	ボランティアセンター学生スタッフ ピア・コミュニティ運営本部 国際コミュニティ “KUブリッジ” KUサポートプランナー（KUSP） KUコアラ 関西大学学生PRチーム SUGaO
内 容	ボランティア活動及びピア・サポート活動紹介 ボランティアセンター学生スタッフ及びピア・コミュニティ活動紹介



ブースに来てくれた学生に説明している様子



学生スタッフの様子



ピア・コミュニティ所属学生の様子

## ⑤ ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿

学生スタッフ自身のスキルアップをめざして年2回養成合宿を実施している。

### 夏合宿

新たに学生スタッフに加入したメンバーを含め、学生スタッフが積極的にボランティアに励み、今後の活動を円滑に進められるように学生スタッフ間の仲を深めることを目的として、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、日帰りで実施した。

- |      |  |
|------|--|
| 日 時  | ①9月12日(月) 11時00分～16時30分<br>②9月13日(火) 12時30分～16時50分 |
| 場 所  | 千里山キャンパス第2学舎C204教室                                 |
| 参加者数 | ①37名(学生スタッフ32名、職員5名)<br>②41名(学生スタッフ36名、職員5名)       |
| 内 容  | 交流ワーク、避難所運営ゲーム、コンセンサスゲーム、<br>4年次生との交流              |



夏合宿の様子



夏合宿の様子

### 学生スタッフの声

- ・避難所ゲームは色んなことを考えながら進める必要があるため、カードに書かれた情報を全て把握しながら進めることがとても困難でした。避難所では非常に難しいことが多く、考えなければならない事がたくさんある事を体感しました。
- ・コンセンサスゲームを体験して、意見をどちらかに寄せるのではなくどちらの意見も取り入れるのが大切だとわかる一方、皆の意見を入れて一つの意見にするのは難しいと感じました。

### 春合宿

2023年度の活動に向けて、学生スタッフに所属する意義や意味を再確認するとともに、今後の活動における方向性を明確にし、学生スタッフ間で共有すること。さらに、グループワークでの意見交換やプレゼンテーションを通して、企画力を身につけ、今後の活動に活かしていくことを目的として実施した。

- |      |  |
|------|--|
| 日 時  | 3月6日(月)～3月7日(火)<br>10時20分開始、翌12時00分終了    |
| 場 所  | 高槻キャンパス100周年記念セミナーハウス・高岳館                |
| 参加者数 | 57名(学生スタッフ53名、教職員4名)                     |
| 内 容  | 交流ワーク、企画力の養成、2022年度の振り返りと<br>2023年度の目標決め |



春合宿の様子



春合宿の様子

## ⑥ 2022年度ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会及び交流会

2022年度は今までと引き続き感染症対策を講じつつも新しいボランティアの形を探し、工夫して活動を行ってきた。

2022年度の活動を振り返り、工夫した点や改善点などを見つけて共有することで、2023年度に向けてより良い活動が行えるようにすることを目的として実施した。

当日は、パワーポイントを用いて2022年度に実施した18事業の実施報告を行った後、グループに分かれてOB・OG、教職員との交流を行った。



活動発表の様子



交流会の様子

日 時 3月4日(土) 13時00分～17時00分

場 所 千里山キャンパス凜風館

4階ミーティングルーム／オンライン (Zoom)

参加者数 44名 (学生スタッフ35名、教職員7名、  
OB・OG2名)

内 容 2022年度に行った各事業の活動報告、  
OB・OGとの交流

### 学生スタッフの声

- ・参加していない企画の内容を詳しく知ることができて、2023年度に向けて参考になりました。
- ・2022年度は、ボランティアをやってみたい人向けに新規企画・恒例企画を含め、幅広く事業を実施できていたことが分かりました。ボランティアの魅力に気付いた人向けに、長期的に続けられる企画があるといいかもしれないと思いました。
- ・この活動報告会を通して、自分が担当していなかったボランティア事業の活動内容だけでなく、改善点まで詳しく知ることができ、とても勉強になりました。

## ⑦ 関西大学×関西学院大学 活動報告交流会

関西大学と関西学院大学それぞれのボランティア活動の内容や様子の共有、意見交換を通して交流を深める機会とする。また、ボランティアステーション等の施設見学を行いながら交流することで、他大学の学生コーディネーターとの活動の違いなどを知り、それぞれの大学の学生スタッフが新しい視点を得ること、これからの団体の活動に活かしていけるようにすることを目的として実施した。

当日は、2グループに分かれて各大学の活動についてなど意見交換をした後、ボランティアステーションの見学を行った。これからの継続的な交流について学生同士で話をするなど、横のつながりをつくる良い機会となった。

日 時 3月29日(水) 15時00分～16時30分

場 所 千里山キャンパス第2学舎C204教室、誠之館2号館1階ボランティアステーション

参加者数 15名 (学生スタッフ6名、関西学院大学5名、教職員4名)

内 容 ボランティアセミナー2023の受講、関西学院大学の学生との交流、  
ボランティアステーションの見学

学生スタッフの声

- ・他大学のボランティアをされている方とお話する中で、関大とは違った様々な活動を知り、今後企画をするときの参考になりました。(法学部・1年次生)
- ・他大学の活動内容を聞いたり、交流ができ新鮮でした。また交流ができたらいいと思います。(環境都市工学部・1年次生)
- ・他大学のボランティアセンターの学生スタッフの活動について知りたいと思って参加しました。コーディネーター側になって、コーディネートするイメージがつかえました。(関西学院大学・3年次生)



意見交換をしている様子



ステーションを見学している様子



集合写真

Ⅱ  
ボラン  
ティア  
センタ  
ー  
学生  
スタッ  
フにつ  
いて

⑦ FM大阪ラジオ出演

月替わりで、日本中の様々な大学よりサステナブルな活動に関する知識・発想を世の中に発信することで、さらなるアイデアを生み出すラジオ番組FM大阪「マクセル meets カレッジナレッジ」から依頼があり、学生スタッフ1名が2週にわたって出演した。

関大生にボランティアの魅力を広めるためにボランティア活動を企画・運営していることや、力を入れて取り組んでいる琵琶湖の環境保全活動について紹介した。

- 放送 7月24日(日)・31日(日) 13時55分～14時00分
- 収録 千里山キャンパス 東体育館 多目的室
- 内容 ボランティアセンター学生スタッフの活動紹介



収録の様子



収録の様子



インタビュアーと学生

## (2) ボランティアセンター学生スタッフの運営

### ① 学生スタッフ全体ミーティング（月1回）

学生スタッフ間の情報共有のため、月に1回全体ミーティングの時間を設けている。全体ミーティングは長期休み中も行い、団体の一員として学生スタッフ全員参加を原則としている。

### ② ボランティアセンター職員とのミーティング

学生スタッフの代表1名・副代表2名で構成する幹部及び、会計2名、ボランティア団体担当者2名で構成する役職者とボランティアセンター職員とで、定期的にミーティングの時間を設け、情報共有や意見交換を行っている。企画準備の進捗状況や団体運営についての相談が中心ではあるが、職員と学生スタッフのコミュニケーションの場にもなっている。職員が代表者と話し合うことで、各イベントの最善の取り組み方法等を共有し、団体として成長していけるような支援につなげている。



全体ミーティング時の集合写真

## 2 ボランティアセンター学生スタッフ事業報告

学生の中には「ボランティアに関心があるけど一歩踏み出せない」という学生もおり、学生スタッフはそのような学生を後押しできるような学内のボランティア活動の企画のほか、様々な社会問題への啓発活動を行っている。

### (1) 学生スタッフ企画

学生スタッフ企画とは、ボランティア活動の魅力を広めるため、まずは学生スタッフ自身がボランティアの魅力を再認識するために企画・参加しているプログラムである。

#### ① ボランティア懇談会

ボランティアに関心のある関西大学の学生にボランティア活動の魅力を発信する1つの手段として、ボランティアコーディネートを実施している。より多くの学生に参加してもらうことを目的として普段はお昼休みに実施しているボランティアコーディネートを、今回はお昼休みから3限終わりまで開室時間を延長して実施した。

日 時	5月13日(金)12時20分～15時00分
場 所	誠之館2号館1階ボランティアステーション
内 容	ボランティアコーディネート



#### ② 富士山自然保護ボランティアツアー（法政大学主催3大学連携事業）

3大学（法政大学・明治大学・関西大学）連携事業の一環として、法政大学主催の世界遺産である富士山の麓で森林整備事業に参加した。

団体の方からオーバーユーズ（使いすぎ）やアンダーユーズ（活用不足）の重要性、環境問題についてなどのお話を伺った後、6～7名ずつのグループに分かれて森林保全活動に取り組んだ。草木の伐採や薪割り、枯れ木処理など、慣れない作業を行うのは大変であったが、休憩時には木登りをしたりブランコに乗ったりして、日常では味わえない大自然とのふれあいを楽しんだ。

日 時	5月22日(日)9時45分～17時00分
場 所	静岡県富士宮市
主 催	認定特定非営利活動法人富士山クラブ
参加者数	37名（学生スタッフ4名、職員1名、他大学学生32名）
内 容	草木の伐採、薪割り、枯れ木処理



薪割りをしている様子

#### 学生スタッフの声

- ・階段づくりや道の開拓など、自分が想像していたよりもはるかに本格的な活動ができました。日常生活の中で鋤や鋸を使ったりすることがないため、初めはうまく使えませんでした。コツをつかんだ後は気持ち良い程スムーズに切れるようになったのが本当に楽しかったです。

### ③ びわ湖を美しくする運動

2022年度に引き続き、琵琶湖の特定外来生物の現状を把握するために、実際に琵琶湖に足を運び、滋賀県が毎年7月1日において「びわ湖の日」に実施している「びわ湖を美しくする運動」の特定外来生物のオオバナミズキンバイおよびナガエツルノゲイトウの駆除活動に参加した。

滋賀県が取り組む、琵琶湖の環境保全について、現状と課題、特に侵略的外来水生植物の繁殖力やその影響による被害を伺い、行政として滋賀県が取り組むボランティアに関して知見を深めた。また、実際に、湖岸に生息する大量のナガエツルノゲイトウを手作業で取り除く体験を行い、学生スタッフとして何ができるのかを考えることに繋げ、今後企画する「琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える環境ボランティアの未来2022（実践編）～」で実現することとした。



外来生物駆除活動の様子



集合写真

日 時	7月1日（金）9時00分～10時30分
場 所	滋賀県大津市 大津市なぎさ公園周辺
協 力	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課
参加者数	7名（学生スタッフ5名、職員2名）
内 容	特定外来生物オオバナミズキンバイおよびナガエツルノゲイトウの駆除及び関係者への取材

### ④ 2022ボランティア新企画募集～あなたの想いを伝えよう～

関大生からボランティアの新企画を募集し、学生スタッフが企画者のボランティアへの想いを他の学生に伝えるお手伝いをする。また、そのボランティアを実現することで学生スタッフの活動に新しい視点を取り入れることを目的として、2022年度から新しく実施した。

SDGsを意識した内容のボランティア活動で、関大生が学生スタッフとともに行うことができる新たな企画を募集したところ、8事業の応募があり、ヒアリングなど選考を重ねベストアイデア賞として「学童保育ボランティア」、学生スタッフ特別賞として「動物愛護団体のお手伝いをして、犬猫と触れ合おう」の2事業が選ばれた。

ベストアイデア賞として選ばれた「学童保育ボランティア」は学生スタッフのサポートのもと、大阪府吹田市の「まちなかりビング北千里」にて、来館する子ども達と遊び、交流するボランティアとして実際に実施し、特典②として本センター活動報告書にも掲載した。

募集期間	7月25日（月）～8月31日（金）
募集内容	SDGsを意識した内容で、複数名が参加できて、みんなで楽しめるボランティア活動のアイデア
募集対象	関西大学に所属の個人またはグループ 特典：①選ばれたアイデアは、学生スタッフのサポートのもと、実際に企画として実施 ②ボランティアセンターが発行する「活動報告書」に記載 ③ボランティア体験ツアーに企画者の名前を付すことができる
応募数	8グループ ○キャンパスで大地震発生から避難までを考える。新！関大グリーン大作戦 ○子ども達が防災について学べる遊びを提供する活動。子ども達とのふれあい大作戦 ○二酸化炭素を減らし地球の環境を守るための植林ボランティア ○私たちの手で綺麗な海を守ろう！海岸清掃in大阪湾沿岸の浅場 ○学童保育ボランティア。動物愛護団体のお手伝いをして、犬猫と触れ合おう



### 学生スタッフの声

- ・アイデアを応募してくれたグループへヒアリングを行うことで、アイデアをより具体的に深掘することができました。
- ・多くの学生に参加してもらうために、広報期間をより長く設け、ボランティアセンター機関誌の配布などで知ってもらう機会を作る工夫をするべきでした。また、体験ツアー化する企画を選定してから実施までに時間がかかりすぎたため、次に実施する際は実施までのプロセスまで細かく決めておきたいです。

## ⑤ ようこそ！ 関大サロンへ

コロナ禍でも実施できるボランティア活動として、吹田市社会福祉協議会の協力を得て、2021年度から高齢者施設に入所する方々とZoomを繋いだオンライン交流会を開始した。

同世代の交流だけでなく、高齢者のような日常の中ではつながりを持ちにくい異世代との交流を通して、高齢者の人々の文化を享受するだけでなく、一緒にゲームや歓談を行い、地域において世代を超えたつながりや相互理解を深める機会を創出することを目的として実施した。加えて、高齢者の方との接し方を学び、学生のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、高齢者の方や施設職員との関わりの中で、どのようなボランティアや支援が必要なのかを知り、これから新たに行う活動を企画する際の気づきを得ることができた。

今後は、関大生を募集してボランティア体験ツアーとして実施することを予定している。

日 時 ①9月5日(月)13時30分～14時30分

②3月15日(水)13時30分～14時30分

場 所 オンライン (Zoom)

受入団体 社会福祉法人 秀明会「特別養護老人ホーム あす～る吹田」

参加者数 ①10名(学生スタッフ4名、職員2名、高齢者3名、施設職員1名)

②11名(学生スタッフ3名、職員3名、高齢者3名、施設職員2名)

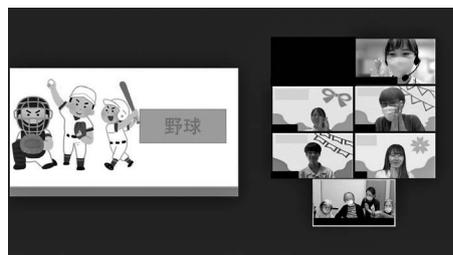
内 容 高齢者とのゲーム・クイズ、歓談

### 学生スタッフの声

- ・高齢者の方が「楽しかった、ありがとう」と言って涙まで流してくださり、短い時間で、これほど感動していただけたのがとても嬉しかったです。
- ・普段あまり話すことのない年代の方々と会話することができ、とても思い出に残る良い時間を過ごせました。



歓談の様子



クイズの様子

## ⑥ まちFUNまつりin関西大学2022 子ども店長サポートボランティア

子ども達を中心に、ともに楽しみ学べる場を地域に作ることを目的として活動している特定非営利活動法人 ママふぁん関西との共催事業として実施した。

「地域に開かれた大学」を目指して始まった本イベントは、今回で6回目を迎えた。学生スタッフも毎年運営補助ボランティアとして参加しており、2022年度は子ども達が店長となって出展ブースのお店を手伝い、お金のやりとりも行うことで働く楽しさやお金の大切さを学ぶ職業体験イベント「子ども店長」企画のサポートを行った。

事前にお給料袋やくじを作成し、当日も会場設営の手伝いを行った。来場した子ども達がエプロンに着替える手伝いや働くお店を決めるくじ引きの対応をする中で、学生スタッフは子ども達の緊張がほぐれるように、声掛けをするなど工夫しながら活動をした。

日 時	10月9日（日）10時00分～13時30分
場 所	千里山キャンパス凜風館およびその周辺
参加者数	学生スタッフ7名
内 容	お給料袋やくじの作成、会場設営、「子ども店長」事業のサポート、子ども達との交流

#### 学生スタッフの声

- ・子ども達の元気な姿に勇気づけられる、楽しい時間でした。
- ・子ども店長自身が楽しかったと笑顔で言ってくれたり、お給料を手渡しするときにとありがとうと声をかけてくれたりして、うれしかったです。



「子ども店長」ブースの様子



「子ども店長」と学生スタッフの集合写真

### ⑦ 非常食配布イベント

防災意識の向上はもちろん食品ロス削減に取り組むことでSDGsの「つくる責任 使う責任」の達成への貢献を目指して、公益社団法人日本非常食推進機構より提供していただいた使用期限が迫った非常食（防災備蓄品）を配布した。

当日は、保存用ビスケット、保存用飲料水、アルファ化米の三種類の非常食を配布するのにあわせて、学生スタッフが広く認知されるように広報を行った。

配布数は、保存用ビスケット300個、保存用飲料水100本、アルファ化米41個だった。

日 時	10月10日（月）12時20分～12時50分
場 所	千里山キャンパス凜風館1階学生センター前
参加者数	学生スタッフ7名
内 容	保存用ビスケット・保存用飲料水・アルファ化米の配布



非常食配布の様子



非常食配布ブースでの集合写真

## (2) ボランティア体験ツアー

ボランティア体験ツアーとは、「ボランティアに関心があるけど一歩踏み出せない」という学生に、ボランティアの第一歩として気軽に参加できるボランティア活動として実施しているプログラムである。

### ① 関大クリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう！～

関西大学周辺まちづくり勉強会※主催の清掃活動にボランティア活動として参加した。

当日は、地域の方や体育会学生と協力して、関大前通りや千里山ユートピア遊園の清掃を行った。道端にはタバコの吸い殻が多く、側溝にもマスクや包装紙のゴミが多く落ちていた。ゴミ拾いを終えたら、根を残さないように専用の道具などで掘り起こしながら千里山ユートピア遊園の除草作業を行った。普段なかなか関わることのない地域の方と交流しながらの活動となり、終始笑顔が絶えない時間となった。

※阪急電鉄関大前駅周辺の地域において、安心・安全で活力と魅力あふれる「まちづくり」を推進し、自治会、関大前商店街、学校法人関西大学及び行政で課題を共有し、方策を検討することを目的とした組織。現在は、関大前ラボラトリ（通称まち・かん）の管理運営及び関大前周辺地域の美化活動を主な活動としている。



日 時 4月14日(木) 8名、5月12日(木) 雨天中止、6月9日(木) 6名、10月13日(木) 7名、11月10日(木) 3名、12月8日(木) 7名 14時00分～15時00分

※参加者数 学生スタッフ延べ15名、本学学生延べ16名

場 所 阪急電鉄関大前駅～関西大学正門の周辺道路、千里山ユートピア遊園

主 催 関西大学周辺まちづくり勉強会

内 容 関大前通り、千里山ユートピア遊園の清掃

#### 企画学生の声

- ・関大前はタバコのゴミや雑草が多く、清掃のやりがいが大きかったです。また、地域の方や関大生とも交流しながら行えたため、最後まで良い雰囲気で清掃できましたと思います。
- ・参加してくれた関大生と活動中もたくさん話せました。1人で清掃に集中するよりも話しながらのほうが楽しく、時間が過ぎるのが早かったです。

#### 参加者の声

- ・コロナ禍でも自分がやれることに挑戦したかったから参加しました。地域の人と交流できて良かったです。(社会学部・2年次生)
- ・街が綺麗になっていくのがうれしかったです。地域の人たちとも協力しあうことができ、充実した時間でした。(法学部・1年次生)



関大前通りの清掃の様子



千里山ユートピア遊園の除草の様子



関大前通りの清掃の様子

## ② 関大クリーン大作戦in高槻

普段利用している駅やキャンパス周辺を清掃し、景観を保護することで、学生や地域の方々が気持ちよく利用することを目的に、また、阪急高槻市で活動することで高槻キャンパス、高槻ミュージアムキャンパスの学生も気軽にボランティアに参加できる機会を設けることを目的として実施した。

4月実施時は、阪急高槻市駅周辺の本通り商店街と中通り商店街の二手に分かれて、清掃活動を実施した。11月実施時は、参加者全員で清掃活動を実施した。両日とも、最初にアイスブレイクを行い、交流してから清掃活動に取り組んだため、雰囲気がよく楽しく活動することができた。

日 時	① 4月17日(日) 9時00分～10時30分 ② 11月27日(日) 9時00分～10時30分
場 所	阪急高槻市駅周辺
参加者数	① 15名(学生スタッフ5名、本学学生10名) ② 7名(学生スタッフ6名、本学学生1名)
内 容	阪急高槻市駅周辺の清掃

### 企画学生の声

- ・想像していたよりも多くの人に参加してもらうことができ、アイスブレイクや清掃活動中は参加者同士の交流があり、いい雰囲気で活動することができてよかったです。
- ・活動中に通りがかった地域の方から「お疲れ様です。」というお言葉をいただくことができ、嬉しかったです。

### 参加者の声

- ・友達の輪を広げたいと思い参加しました。ゴミをたくさん拾うことができやりがいがありました。(社会安全学部・1年次生)
- ・少人数のグループに分かれてのゴミ拾いだったので、1人で参加しても他の参加者と話しながら活動しやすくて良かったです。(総合情報学部・3年次生)



清掃の様子



清掃の様子



集合写真

### ③ 淀川掃除

淀川河川敷の清掃をすることで、大阪湾へゴミが流れ込むことを防ぎ、淀川の水質や景観を保護することを目的に、また、清掃活動という気軽に参加できる点を活かして、関大生にボランティア活動の魅力を広める機会にすることを目的として実施した。2021年度には、淀川河川事務所に相談を行ったうえで、これまで清掃を行っていた南方地区から行政の対応が追い付いていないより河口の西淀川区福町地区へ場所の変更を行った。

4月実施時は雨天だったため、河川敷の手前を2グループに分かれて清掃活動を行い、途中でグループを入れ替える等、参加者同士がより多く関わられるよう工夫を行った。

10月実施時は晴天に恵まれ、5グループに分かれて河川敷を広く清掃した。

日 時	① 4月24日(日) 10時00分～12時00分 ② 10月23日(日) 10時00分～12時00分
場 所	大阪市西淀川区 阪神福駅近くの河川敷
参加者数	① 26名(学生スタッフ8名、本学学生18名) ② 20名(学生スタッフ10名、本学学生10名)
内 容	淀川河川敷の清掃

#### 企画学生の声

- ・雨の中での実施となり、予定していた通りの淀川掃除は出来ませんでした。参加者の方から「楽しかった」という言葉が聞いて嬉しかったです。
- ・通りすがりの地域の方からどこの大学の団体なのかと尋ねられ、「ありがとうね、頑張っ！」とお声掛けいただいて嬉しかったです。

#### 参加者の声

- ・河川敷には多くのゴミが落ちていて、それらを拾っていくことが単純に楽しかったし、学生スタッフの方や参加者の方と色々話せてよかったです。(外国語学部・1年次生)
- ・前に参加した清掃ボランティアで誘ってもらったので、参加しました。思っていたよりもプラスチックのゴミが多くて驚きました。(政策創造学部・1年次生)



4月清掃活動の様子



10月清掃活動の様子



集合写真

ボランティア体験ツアー  
**淀川掃除**  
4月24日(日)  
10時00分～12時00分  
(順延日: 4月29日(金) 10時00分～12時00分)

活動場所 阪神福駅近くの河川敷  
集合場所 阪神福駅西九条、奈良方面改札前広場  
内 容 淀川河川敷の清掃  
申込定員 30名(先着順)  
申込方法 右下のGoogleフォーム

一緒に淀川河川敷を綺麗にしませんか?

ボランティアセンター学生スタッフは、「淀川サポーター」として積極的に淀川河川敷の清掃を行っています!

ボランティアセンター学生スタッフ

ボランティア体験ツアー  
**淀川掃除**  
10月23日(日)  
10時00分～12時00分

活動場所 阪神福駅近くの河川敷  
集合場所 阪神福駅前広場  
内 容 淀川河川敷の清掃  
申込定員 30名(先着順)  
申込方法 右下のgoogleフォーム

申込はこちら!

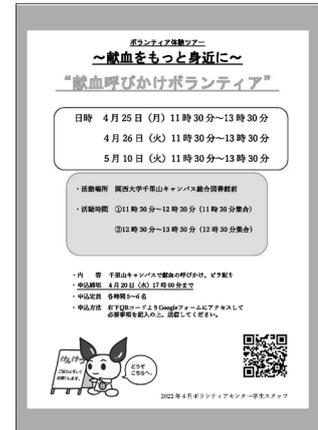
関西大学ボランティアセンター学生スタッフ

#### ④ 献血呼びかけボランティア

献血の必要性を多くの学生に伝えることが、社会貢献につながるということを知ってもらうこと、また、気軽に参加できる学内ボランティアを通じて、ボランティアの良さを身近に感じてもらい次のボランティア活動参加のきっかけを創出することを目的として実施した。

現在の日本では少子高齢化が進み、輸血を必要とする高齢者の割合が増える一方で、それを支える若者の献血者数が減っているという危機的状況にある。また、血液は長期の保存ができないため、安定的な供給が必要であるが、献血について学生の関心が薄いのが現状である。

献血を実施の広報だけでなく、当日は、献血車前で看板を持って献血協力の呼びかけを行った。



日 時 4月25日(月)14名、4月26日(火)9名、5月10日(火)6名、6月7日(火)8名  
10月12日(水)10名、10月20日(木)3名、11月11日(金)6名、12月5日(月)4名  
11時30分～13時30分、12時00分～13時00分

※10月20日は関大防災DAYの事業の一環として実施した。  
※参加者数 学生スタッフ延べ40名、本学学生延べ20名

場 所 千里山キャンパス総合図書館前、悠久の庭前

協 力 大阪府赤十字血液センター

内 容 献血への協力呼びかけ

#### 企画学生の声

- ・授業終わりで人通りが多い時間帯に呼び込み時間を設定したため、効果的に呼びかけが行えたと思います。前を通った方が自分たちの呼びかけに反応してくださって嬉しかったです。また、毎月行っているので声を出すことに慣れてきて、積極的に声かけをすることができました。
- ・呼びかけを行ったことで、多くの学生に献血実施中であることに気付いてもらうことができました。呼びかけに反応してくださる方もいて嬉しかったです。

#### 参加者の声

- ・輸血経験があるため、恩返しになればと思って参加しました。活動はアットホームな雰囲気を楽しむことができました。(文学部・2年次生)
- ・自分が想像していた以上に人が集まり、献血に協力していたので、声掛けの達成感を感じました。(商学部・3年次生)



献血呼びかけ活動の様子



献血呼びかけ活動の様子

### ⑤ 関大花植え活動（大学昇格100年記念）

大学昇格100年記念事業の一環として、経済学部と商学部の学び舎である第2学舎1号館前の広場を、山岡順太郎の胸像とともにリニューアルすることとなり、管財課の協力のもと、花壇の花植え活動を実施した。大学昇格100年という節目に、緑のなかで新しい仲間と出会って交流しながら、学生たちの愛校心を育むこと。また、今後の広報を含めて、「ボランティアセンター学生スタッフ」が大学内で広く認知されることを目的として実施した。

当日は、業者の方の指示に従いながら土を掘り、花を植えた。活動の途中から雨が降り出したため、レインコートを着用しての活動になったが、参加者全員が熱心に取り組んだ結果、予定よりも広い範囲に花を植えることができた。



日 時	5月13日（金）9時00分～12時10分
場 所	千里山キャンパス第2学舎1号館前広場
参加者数	30名（学生スタッフ9名、本学学生21名）
内 容	花壇の花植え

#### 企画学生の声

- ・花を植える場所の土が硬くて、掘るのに思ったより時間がかかって大変でした。また、植えるときに花の間隔や全体のバランスを考えるのが難しかったので、わからないことがあったら業者の方に質問しながら作業をすすめました。
- ・業者の方から「これからも手伝いにきてほしい」と言って褒めていただけて、嬉しかったです。

#### 参加者の声

- ・花植えに興味があったので参加しました。想像していたよりも体力を使い、花壇がきれいになっていくのが分かってやりがいがありました。（システム理工学部・4年次生）
- ・ボランティア活動を体験してみたかったので参加しました。自分の活動が花というかたちで残って嬉しいです。（文学部・1年次生）



花植え活動の様子



花植え活動の様子



花植え活動の様子

## ⑥ 高槻景観美化ボランティア

自然と共生する「花と緑のまちづくり」に寄与することを目的としている高槻市のNPO法人「花と緑のまちづくり 高槻景観園芸クラブ」との連携事業として活動に参加し、学生に環境美化、地域交流の必要性を学んでもらうことを目的として実施した。

高槻景観園芸クラブの方々から活動の説明を受けた後、初対面の学生の緊張をほぐすためにアイスブレイクを行った。高槻景観園芸クラブの方々の指示に従い、苗床を整備して花を植えていく中で、良い苗の見分け方や植物の種類なども教えていただいた。

11月実施時は花を植えた後、花壇周りや他の花壇に積もった大量の落ち葉を拾い集め、花壇全体の景観を美しく整えた。

幅広い世代の憩いの場所である公園を美化し、まちづくりに関心を持てるような事業は貴重なものであり、団体の方々とのコミュニケーションを取りながら、楽しく花植え活動を行うことができた。

日 時 ① 5月14日（土）8時50分～11時00分

② 11月20日（日）9時00分～11時00分

場 所 大阪府高槻市 高槻城公園

連携先 NPO法人 花と緑のまちづくり 高槻景観園芸クラブ

参加者数 ① 7名（学生スタッフ5名、本学学生2名）

② 6名（学生スタッフ4名、本学学生2名）

内 容 高槻城公園内の花壇の手入れ、地域の方との交流

### 企画学生の声

- ・団体の方といろんなお話をしながら花植え活動を行い、花植えをしたことがない学生でも不安なく楽しめた事業でした。参加学生にボランティアの魅力伝えたとともに、自身も改めてボランティアの魅力を感じることができました。
- ・花にも一つ一つ個性があり、それぞれに花の魅せ方があるのだと初めて知り、ただ活動するのではなく、何かを意識して取り組むことの大切さを学びました。

### 参加者の声

- ・花壇の手入れをしたことがなく、一度してみたいと思ったので参加しました。花壇が綺麗になった際に感じた達成感や団体の方々との交流を通じて、ボランティアの魅力や楽しさを感じることができました。（法学部・4年次生）



花植え活動の様子



花植え活動の様子



集合写真



### ⑦ 関大クリーン大作戦in梅田

梅田キャンパスの周辺を清掃することで環境や景観を保護し、通行する人々が気持ちよく過ごすことができるようにすること、気軽に参加できるボランティア活動として清掃活動に参加することでボランティアのやりがいや楽しさを感じてもらうことを目的として実施した。

当日は、梅田キャンパスの教室にてアイスブレイクを行ったあと、2グループに分かれて茶屋町エリアの清掃を約1時間行った。清掃活動中には、通りがかった人や清掃ルートのある店舗の方からお礼の言葉をもらうことができ、参加者の達成感や満足感につながった。日曜の朝ではあったが人通りや車が多く、学生スタッフが時折声をかけて注意を促しながら活動した。

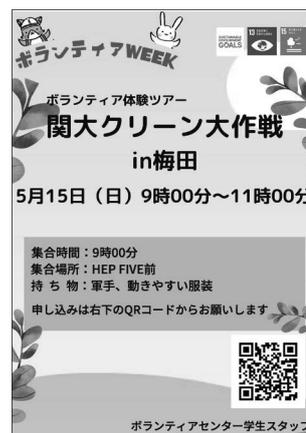
日 時	① 5月15日(日) 9時00分～11時00分 ② 11月13日(日) 9時00分～11時00分
場 所	梅田キャンパス周辺
参加者数	① 19名(学生スタッフ5名、本学学生14名) ② 13名(学生スタッフ3名、本学学生10名)
内 容	梅田キャンパス周辺の清掃

#### 企画学生の声

- ・アイスブレイクで学部や趣味などの自己紹介を行ったので、活動中の話題ができてすぐ話しやすかったです。友達同士が一緒になるようにグループ分けしたのがよかったのか、参加した学生同士楽しそうに活動していました。
- ・清掃の距離を延ばすなどの工夫をしましたが、ルートによってゴミの量が違っていたので、ルートの見直しが必要だと感じました。雨の中での活動でしたが、みんなで楽しく清掃活動ができたので嬉しかったです。

#### 参加者の声

- ・活動場所が梅田なので参加しやすいと思い参加しました。普段なかなかゴミ拾いを行う機会がなかったので経験できて良かったです。(商学部・1年次生)
- ・一度ボランティアに参加してみたいと思ったので参加しました。自分たちで街を少しでも綺麗にする活動ができ、良い経験になりました。(社会安全学部・1年次生)



Ⅱ  
ボラン  
ティ  
アセ  
ンタ  
ー  
学  
生  
ス  
タ  
ッ  
フ  
に  
つ  
い  
て



清掃活動の様子



清掃活動の様子



集合写真

## ⑧ 関大クリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～

普段自分たちが利用している千里山キャンパス周辺を清掃することで環境や景観を保護し、関大生や地域の方々がより気持ちよく過ごすことができる。また、授業の空きコマに気軽に参加できることでボランティア活動を身近に感じてもらうことを目的として実施した。

活動前にアイスブレイクを行い、学部や学年に関係なく学生同士が交流することで、その後の活動も和やかな雰囲気で行うことができた。清掃は関大前ルートと名神高速道路沿いルートの2コースに分かれて行った。ゴミは「燃えるゴミ」「ビン・カン」「ペットボトル」の3つに分類して集めたが、タバコの吸い殻が最も多く、ゴミを拾うだけでなく、今後はゴミを捨てる人が少なくなるように啓発を目的とした活動も検討している。

日 時 ① 5月21日(土) 10時40分～12時10分

② 10月15日(土) 10時40分～12時10分

場 所 千里山キャンパス周辺

参加者数 ① 10名(学生スタッフ3名、本学学生7名)

② 16名(学生スタッフ7名、本学学生9名)

内 容 千里山キャンパス周辺の清掃

### 企画学生の声

- ・ゴミの量が少なく、やりがいを感じにくいのではないかと心配でしたが、清掃中はずっと楽しく会話しながら活動を行うことができました。
- ・参加者の1回生が1人で、他の上級生と仲良くなれるかどうか不安がありましたが、始まってみればみんな会話が絶えず、終始楽しく活動することができました。

### 参加者の声

- ・自分が通っている大学に恩返しをしたいと思って参加しました。意外と大学の周りが綺麗だったことに驚きました。(社会学部・3年次生)
- ・アルバイトをやっていないため、他に何か出来ることはないか、頑張れることはないか、と探していたらこのボランティアを見つけて参加しました。意外と細かいゴミが多く、拾うのが大変でしたが、充実した時間を過ごせました。(法学部・1年次生)



清掃活動の様子



清掃活動の様子



清掃活動の様子

### ⑨ 関西大学×法政大学 スポーツゴミ拾い

法政大学と連携しZoomを用いて合同でゴミ拾いを実施した。「スポーツゴミ拾い」とは、制限時間内に指定されたエリアのゴミを拾い、拾ったゴミの量と種類で得点を競い合うというスポーツ要素を加えた、日本発祥の新感覚清掃活動である。ゴミ拾いにスポーツ要素を掛け合わせることで、ゴミ拾いをスポーツ感覚で楽しみ、ボランティアへの興味を引き出し、法政大学の学生と交流を深め、参加者同士で協力してゴミ拾いを行うことで連帯感や達成感を得ることを目的として実施した。

当日は、Zoomを繋ぎながらキャンパス周辺の清掃を行い、清掃の様子だけでなく、キャンパスの様子なども映すことで大学の所属を超えて、学生ボランティア同士の交流も行うことができた。



- 日時** ① 5月29日(日) 14時00分～16時20分  
② 3月13日(月) 13時50分～16時20分
- 場所** ① 関西大学千里山キャンパス周辺および凧風館1階学生ラウンジ  
法政大学市ヶ谷キャンパス周辺および外濠校舎3階S305  
② 関西大学千里山キャンパス周辺および尚文館1階マルチメディアAV大教室  
法政大学市ヶ谷キャンパス周辺および外濠校舎3階S305
- 共催** 法政大学ボランティアセンター、法政大学ボランティアセンター学生スタッフ VSP
- 参加者数** ① 32名(学生スタッフ10名、本学学生7名、法政大学15名)  
② 25名(学生スタッフ7名、本学学生6名、法政大学12名)
- 内容** それぞれのキャンパス周辺のゴミ拾い、クイズ大会、法政大学との交流



#### 企画学生の声

- ・拾ったゴミを得点化して競うのはゲーム感覚があり、参加者に楽しんでもらえたように思います。参加者の方がゴミを袋に入れるときに何を拾ったかを伝えてくれたので、記録がスムーズに進みました。
- ・単なるゴミ拾いではなく、ゴミを点数化してチーム対抗で競うことで、楽しみながらも一生懸命に取り組むことができ、参加者にボランティアを楽しむ感覚を味わってもらえて、非常に良かったです。



クイズ大会の様子

#### 参加者の声

- ・スポーツゴミ拾いはゲーム性があり、法政大学の学生と交流しながら楽しく活動することができました。(文学部・2年次生)
- ・学生スタッフの方もほかの参加者の方も丁寧に接してくれて嬉しかったです。おかげで楽しく街を綺麗にすることができました。(法学部・2年次生)



集合写真

Ⅱ ボランティアセンター  
学生スタッフについて

## ⑩ 1000000人のキャンドルナイト 茶屋町スロウデイ2022

梅田・茶屋町エリアの企業、地域団体、学校および行政などが集まって“歩いて楽しいまちづくり”を推進し、茶屋町の魅力を発信する本イベントに2017年度から参加している。魅力発信に取り組み地域の活性化を行い、キャンドルの灯りを見てくれる人に気持ち安らぐ時間や癒しを提供することを目的として実施した。

2022年度は「Convivial ～ともに愉しむ日～」をテーマに、3年ぶりの現地開催となった。「キャンドルの灯りが人々の心に安らぎと未来への希望をもたらすように」という願いを込めて、学生スタッフはCHASKA茶屋町（ジュンク堂書店）前にキャンドルアートを設置した。

事前に学生スタッフが考えたデザインを基にキャンドル装飾を行い、設置・点火・火の見守り・会場の片付け等の活動を行った。

キャンドルに火が灯り、日が落ちて街が暗くなるにつれて、大勢の方がキャンドルアート前で足を止めて写真撮影を行い、キャンドルの光に照らされた笑顔に溢れたイベントとなった。



日 時	①事前説明会：5月25日（水）12時20分～12時50分 ②活 動：6月1日（水）13時00分～22時00分
場 所	①千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア／オンライン（Zoom） ②大阪市北区 CHASKA茶屋町
参加者数	24名（学生スタッフ11名、本学学生13名）
内 容	①活動の事前説明会 ②キャンドル装飾の制作・設置・点灯・見守り

### 企画学生の声

- ・CHASKA 茶屋町全体がキャンドルの温もりに包まれた空間を体感できて良かったし、自分がその空間を作る側として携わることができて嬉しかったです。たくさんの方達が見に来てくれたり写真を撮ったりしてくれて、地域の活性化に貢献できたと思えました。
- ・日が沈んだ後、キャンドルが光っている景色を見た時に、とても感動しました。たくさん写真を撮っている方や、キャンドルの灯をずっと眺めている方もいらっちゃって嬉しかったです。

### 参加者の声

- ・点灯時間までにキャンドルの設置が間に合うか不安でしたが、参加者の方々と協力して取り組み、デザイン通りのものを完成させることができました。点灯した綺麗なキャンドルを見ると、達成感や安らぎを感じることができ、ボランティアに参加して良かったと感じました。（社会学部・1年次生）
- ・一緒に活動した関大生と仲良くなることができ、入学してなかなか友達ができなかった自分にとってすごく嬉しく、楽しいボランティア活動でした。（社会学部・2年次生）



キャンドルを設置している様子



キャンドルを点灯した様子



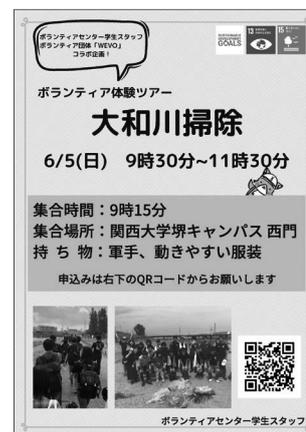
集合写真

## ① 大和川掃除

堺キャンパス周辺を流れる大和川河川敷を清掃することで景観を清潔に保つことができ、地域の方が河川敷をより気持ちよく利用できると同時に、堺キャンパス周辺の地域貢献活動を目的として実施した。

本活動は、堺キャンパスに通う学生にとって参加しやすい活動場所であることから、堺エリアで活動を展開しているボランティア団体「WEVO」とも連携して実施している。

当日は雲が多かったが気温は高かったため、こまめに休憩をとり、熱中症に気を付けながら清掃活動をした。河川敷には大和川上流から家庭ゴミやペットボトル等が流れてくるため、参加者全員で力を合わせて清掃することで河川敷を綺麗にすることができた。



日 時	6月5日(日) 9時30分~11時30分
場 所	大阪府堺市 大和川左岸河川敷
参加者数	72名(学生スタッフ14名、本学学生17名、WEVO所属学生41名)
内 容	大和川河川敷の清掃
協 力	WEVO

### 企画者の声

- ・ 普段交流する機会が少ないWEVOの方達と交流することが出来て、貴重な機会でした。一見何も無いように見えても、掘ってみると靴が1足出てくるなど、砂に埋まっているゴミが沢山見られました。
- ・ 同じグループの方たちと楽しく話しながら協力して清掃することができて良かったです。堺キャンパスの方と一緒に活動することは初めてだったので、とても新鮮でした。キャンパス間の交流にもなり、有意義な活動となりました。

### 参加者の声

- ・ 社会経験を積むために参加しました。初対面の人とも話すことができたので良かったです。(法学部・3年次生)
- ・ ボランティアの経験を積む良い機会になると考えたので、参加しました。活動自体は思っていたよりも短く感じ、少人数でのグループだったので活動しやすかったです。(法学部・3年次生)



清掃活動の様子



清掃活動の様子



集合写真

## ⑫ 吹田くわいボランティア

若者の農業への関心が低下し、千里山キャンパスがある吹田市の特産品である吹田くわいの認知度が低いという現状がある。そこで、吹田くわいの植え付けから収穫まで一年を通した活動を通して、吹田くわいについて深く理解してもらうとともにボランティアの魅力に気付いてもらうことを目的として実施した。

どちらの活動も、農園の方から吹田くわいの説明をしていただき、植え付けや収穫のコツについてお話いただいた後、作業を行った。植付けでは、日常生活では着る機会のない胴長を着用しての作業に苦戦しながらも、参加者同士で声を掛け合い農業の大変さを感じながら活動した。収穫では、備中鍬でくわいを傷つけないように慎重に泥をかき分けながら、全部で約700グラムのくわいを収穫した。

日 時 ①植え付け：6月16日（木）14時45分～17時00分

②収 穫：12月5日（月）14時45分～17時00分

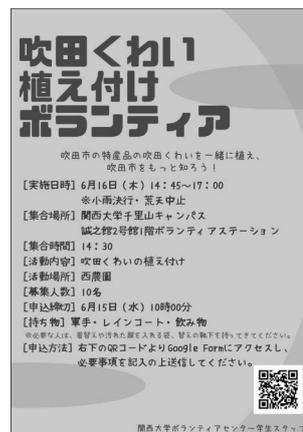
場 所 大阪府吹田市 西農園

協 力 吹田市都市魅力部 地域経済振興室

参加者数 ①13名（学生スタッフ5名、本学学生8名）

②6名（学生スタッフ6名）

内 容 吹田くわいの植え付けと収穫作業の手伝い



**吹田くわい  
植え付け  
ボランティア**

吹田市の特産品の吹田くわいを一緒に植え、吹田市をもっと知ろう！

【実施日時】6月16日（木）14：45～17：00  
※小雨決行・荒天中止

【集合場所】関西大学千里山キャンパス 誠之館2号館1階ボランティアステーション

【集合時間】14：30

【活動内容】吹田くわいの植え付け

【活動場所】西農園

【募集人数】10名

【申込締切】6月15日（水）10時00分

【持ち物】軍手・レインコート・飲み物

※応募の方は、履き慣れた厚底の靴を履き、靴の裏下を汚さないでください。

【申込方法】右下のQRコードよりGoogle Formにアクセスし、必要事項を記入の上送信してください。

関西大学ボランティアセンター学生スタッフ



**ボランティア体験ツアー  
吹田くわい  
収穫ボランティア**

日 時：12月5日（木）14：40～17：00  
※小雨決行・荒天中止

集合場所：千里山キャンパス誠之館2号館1階  
ボランティアステーション前

集合時間：14：40

募集人数：5名（先着）

申込方法：下記のGoogleフォームからお申込み下さい。

関西大学千里山キャンパスがある吹田で育てられている吹田くわいの収穫をお手伝いします！ぜひご参加下さい！

申込はこちらから

関西大学ボランティアセンター学生スタッフ

### 企画者の声

- ・大学のある吹田市の特産品に触れることができ、地域のことを少しでも知るきっかけとなりました。
- ・くわいを収穫する作業は考えていたよりも大変でしたが、そのぶん達成感があり、泥の中からくわいを見つけた時は嬉しい気持ちになりました。頂いたくわいを家に帰って素揚げにして食べてみると、自分達で収穫したこともあってとても美味しかったです。

### 参加者の声

- ・普段の生活で農業に関わることがないので、やってみたいと思って参加しました。農業体験だけでなく、くわいの事を知ることもできてよかったです。（文学部・4年次生）
- ・「すいたん」のモチーフであるくわいに興味があったので参加しました。また、学生スタッフの方が話しやすくてよかったです。農家の方のお話も面白かったです。（法学部・2年次生）



くわい植え付けの様子



くわい収穫の様子



集合写真

### ⑬ 飛鳥光の回廊2022 ～明日香をともし「和」のひかり～

明日香村で毎年行われている、石舞台古墳をはじめ岡寺や飛鳥寺など、明日香村内の代表的な史跡・寺社・施設をろうそくやLEDライトの明かりで彩る地域活性化イベントで、奈良県明日香村との連携事業として実施した。

「キャンドルの輪と和でつながる光」を関西大学のテーマとし、キャンドルのデザインや配置を考え、他の活動では得られない大変さと、より大きなやりがいや達成感を感じることができた。

残念ながら1日目は雨天のため中止となったが、石舞台古墳や奈良県立万葉文化館などを見学し、明日香村の歴史や文化的価値について学んだ。2日目は、用意した約3000個の色付き紙コップを「ボランティアセンター 2022」という文字やピラミッド、円の形に並べた。夕方からは多くの方が来場し、写真撮影をしたりと笑顔溢れる楽しい空間となった。



- 日 時** ①事前説明会：9月1日(木)12時00分～13時00分  
②活 動：9月23日(金)10時00分～17時00分  
9月24日(土)11時00分～22時00分

- 場 所** ①オンライン(Zoom)  
②奈良県高市郡明日香村 川原寺跡

**連 携 先** 奈良県明日香村

**参加者数** 40名(学生スタッフ延べ21名、本学学生延べ19名)

- 内 容** ①活動の事前説明  
②キャンドルデザイン案の作成、キャンドルを入れる紙コップの制作、  
キャンドルの設置・点灯・撤去、明日香村の散策、地域の方との交流

#### 企画学生の声

- ・イベントが始まると多くの方が見に来てくださり、「きれい」「すごい」などのお声をきくことができ、このイベントに関西大学ボランティアセンター学生スタッフとして参加してよかったと思いました。
- ・気温が高い中、多くのキャンドルを並べていくのは大変だったが、みんなで協力し合いながら長時間かけて作り上げたので、その分、夜になりキャンドルの灯りがきらきらしているのを見るととても達成感を感じることができました。

#### 参加者の声

- ・楽しそうだったので参加しました。思っていたよりずっと大変だったけど、終わったあとの達成感が気持ちよかったです。(社会安全学部・1年次生)
- ・みんなでキャンドルを並べるのがとても楽しかったです。参加して良かったと思いました。(経済学部・1年次生)



キャンドルを設置している様子



キャンドルを設置している様子



集合写真

#### ⑭ 下校見守り活動

吹田警察生活安全課防犯係と連携して、千里山キャンパス近くの小学校に通う子どもが安全に下校できるような環境を守ることを目的として、千里山キャンパス周辺の小学校の下校時間にあわせて正門前で見守り、声かけを実施した。

当日は、子どもたちが「さようなら」「気を付けて帰ってね」と声をかけると元気よく挨拶を返してくれたり、関西大学という名前を見て「知ってる!」と声をかけてくれたりと、参加した学生ボランティアとの交流を楽しむ様子が伺えた。

**下校見守り活動**  
警察官と一緒に!  
小学生の下校時の安全を見守り、  
声かけを行います!  
10/11(Tue)~10/14(Fri)  
14:00~15:00  
※10/12のみ 12:45~14:15  
Place 誠之館2号館1階  
ボランティアステーション前  
活動:吹田市立千里第二小学校  
(千里山駅から500m)  
ボランティアセンター学生スタッフ

**日時** 10月11日(火) 7名、13日(木) 4名、14日(金) 4名 14時00分~15時00分  
10月12日(水) 3名 12時45分~14時15分  
※参加者数 学生スタッフ延べ10名、本学学生延べ8名

**場所** 吹田市立千里第二小学校  
**協力** 吹田警察署生活安全課防犯係  
**内容** 小学校正門前での声掛け、見守り

#### 企画学生の声

- ・見守り活動中はできるだけ腰を屈めて、子どもたちと目線の高さを合わせて挨拶することを心がけるようにしました。地域に根ざしたボランティア活動を企画できてよかったです。
- ・元気に挨拶をしてくれた子どもも多く、見守り活動をしている私たちの方が元気をもらいました。

#### 参加者の声

- ・実際に吹田警察署の方と連携して、見守り活動をするという貴重な経験ができて良かったです。小学生から挨拶を返してもらえたりして本当にやってよかったと思いました。とてもいい経験になりました。(法学部・3年次生)
- ・はじめてのボランティア活動で緊張していましたが、学生スタッフの方も職員の方も優しく安心して見守り活動もやりがいを感じる事ができたので、参加して良かったです。(商学部・3年次生)



見守り活動の様子



見守り活動の様子



見守り活動の様子

## ⑮ 琵琶湖ツーリズム！～大学生で考える環境ボランティアの未来2022（実践編）～

関西大学ボランティアセンターは2017年度から琵琶湖の保全活動に取り組んでいる。2017年度は特定外来生物オオバナミズキンバイ駆除活動、2018年度は清掃活動を実施し、2019年度及び2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を見合わせた。

本学主催3大学（法政大学・明治大学・関西大学）連携事業として、法政大学の学生ボランティアとともに、琵琶湖岸の環境保全活動として滋賀県長浜市の南浜漁港にて、船の出港を妨げている特定外来生物ナガエツルノゲイトウの駆除活動を行った。

当日は、学生ボランティア全員が胴長とライフジャケットを身につけ、岸と舟上よりナガエツルノゲイトウの駆除活動を行った。ナガエツルノゲイトウは、琵琶湖や内湖、河川などの水際に生育している水陸両生の多年生の植物で、茎の断片からも再生するほど繁殖力が強いいため、機械ではなく手作業で根や茎をできるだけ残さないように根本から丁寧に引き抜き、陸に上げる作業を熱心に行った。

その結果、夕方には、湖面が見えないほど群生していたナガエツルノゲイトウのほとんどを駆除することができ、参加者全員がやりがいや充実感を得ることができ、大学生として環境ボランティアの未来を考えるうえでの契機となった。また、今回の活動を通して、大学の所属を超えて学生ボランティア同士が交流を行うことができ、有意義な1日となった。



日 時 ①事前説明会：10月11日（火）12時15分～12時50分

②駆除活動：10月16日（日）7時30分～18時00分

場 所 ①オンライン（Zoom）

②滋賀県長浜市 南浜漁港

活動協力 滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員 /

滋賀県琵琶湖環境部 自然環境保全課 副主幹 中井 克樹 氏

南浜漁業協同組合

参加者数 ①36名（学生スタッフ30名、本学学生6名）

②42名（学生スタッフ24名、本学学生5名、法政大学9名、教職員4名）

内 容 特定外来生物ナガエツルノゲイトウの駆除活動

### 企画学生の声

- ・ナガエツルノゲイトウは、とるのが難しく、無理に引っ張っても途中で切れてしまうと意味がなく、ナガエツルノゲイトウの駆除の大変さに驚きました。活動後のきれいな湖面を見たからこそ、自然をこれからも大切にしていかなければいけないと感じました。
- ・関西大学及び法政大学の学生、職員の方たちと活動中に交流できたので、楽しかったです。自分たちの活動の成果を現地の方が喜んでくれていたことで、より達成感を感じることができました。

### 参加者の声

- ・ナガエツルノゲイトウの駆除活動は、協力することが必須な作業だったので、参加者同士でコミュニケーションをとり新しい輪を広げられてよかったです。（関西大学・3年次生）
- ・外来種の駆除という貴重な体験をしてみたいと思い、参加しました。目に見える形で成果が現れるので、達成感を感じることができ参加してよかったですと感じました。（関西大学・1年次生）

- ・晴天の中、関西大学の皆さんと協力して非常に楽しく活動することができました。また、漁協の方も優しく特定外来生物の駆除方法を教えてくださり、初心者でもすぐに取り組める内容でした。昼食時は関西大学のみなさんとコミュニケーションを取りながら時間を過ごすことができ、2大学合同ボランティア活動ならではの有意義な経験となりました。(法政大学・3年次生)
- ・関西大学の方々と連携して、特定外来生物を駆除することができて良かったです。また、今回の駆除活動を通じて、どれだけ湖が汚れているのかを目の当たりにし、今後、自分がどのように環境活動に関わっていけばいいのかを考える良い機会になりました。(法政大学・2年次生)



駆除活動の様子



舟上での駆除活動の様子



集合写真

## ⑯ 2022年度学園祭「環境問題ってなんだろな?〜クイズで!ゲームで!楽しく学ぼう!〜」

学生スタッフは、淀川河川敷の清掃活動や琵琶湖の特定外来生物の駆除活動などといった環境保全活動を普段から多数実施している。そういった経験を活かし、遊びを通して子ども達に環境問題について考えるきっかけをもってもらえるような企画とした。また、統一学園祭に来訪される保護者の方や地域の方及び本学学生に、ボランティア活動の魅力と学生スタッフの活動を知ってもらうことを目的として実施した。

本学統一学園祭には、親子連れや子どもが多く来場するため、子どもを対象としてSDGs(特に環境問題)について学んでもらうため、環境問題というテーマで3つのブースを設けた。当日は多くの子ども達が訪れ、ゲームを通して環境問題について学びを得る機会となった。

2022年度学園祭  
環境問題ってなんだろな?  
〜クイズで!ゲームで!楽しく学ぼう!〜  
ボランティア募集

日時: 11月3日(木) 12時00分~15時30分  
11月4日(金) 10時00分~16時00分  
11月6日(日) 10時00分~13時00分  
※1日のみの参加も可能です!・各日程10名  
場所: 関西大学湊風館1階学生ラウンジ  
内容: 紙芝居やミニゲーム、塗り絵など、遊びを通して子どもたちに環境問題について学んでもらうお手伝いです!

申込みはこちら↓

2022年10月 関西大学ボランティアセンター学生スタッフ

日 時 11月3日(木) 12時00分~15時30分

11月4日(金) 10時00分~16時00分

11月6日(日) 10時00分~13時00分

場 所 千里山キャンパス凧風館1階学生ラウンジ

参加者数 102名(学生スタッフ延べ94名、本学学生延べ8名)

## 企画内容：



## ・紙芝居

海洋プラスチック問題を中心とした環境問題について紙芝居で説明したあと、身近な例を使ったクイズで環境問題について楽しく学んでもらった。



## ・ミニゲーム

牛乳パックや段ボールなどを再利用して作ったおもちゃで魚釣りゲームをしてもらった。捨てるはずだったもので遊んでもらうことで、リサイクルの大切さやゴミを減らす工夫などについて楽しみながら学んでもらった。



## ・塗り絵

色鉛筆やクレヨンを使ってSDGsや地球をモチーフにした塗り絵をしてもらいながら、SDGsについて興味を持ってもらった。

## 企画学生の声

- ・初めて学園祭に参加しましたが、とても楽しかったです。子ども達が楽しみながらも環境問題について学びを深めてくれている姿が、とてもいきいきとしていたのが嬉しかったです。
- ・ミニゲームも塗り絵も紙芝居も全て子ども達は楽しそうに体験してくれていました。笑顔で帰っていく子ども達を見ると、とても嬉しく感じました。

## 参加者の声

- ・一度もボランティアに参加したことがなかったので、参加してみたいと思って参加しました。来場してくれた子ども達が可愛かったです。(経済学部・3年次生)
- ・子どもとコミュニケーションを取れる良い機会だと思ったので参加しました。学生スタッフの方も親切で楽しく活動できました。(社会学部・1年次生)

## ⑰ 千里キャンドルロード2022

吹田市と豊中市にまたがる千里ニュータウンの人口にちなんだ9万個のキャンドルに灯をとともすイベント「千里キャンドルロード」に本センターは2014年度から参加し、今回で8回目となる。10周年を迎えた今年、『「出会い」これまでも…これからも…』をテーマに、3年ぶりに来場予約なしでの開催となった。

学生スタッフはキャンドルのデザインから考え、2022年度は、約2000個の紙コップを色づけした大きな赤いハート2つを中心に、伸びる蔦葉や青い紙コップで縁取りした「Kandai Volunteer Center 2022」の白い文字など、工夫を凝らしたデザインを作成した。

当日は、多くの方が訪れ、暗くなってキャンドルに火が灯されると、あたり一帯が幻想的な光景になる様子を訪れた方たちが足を止め写真撮影をするなど、笑顔溢れる光景となった。



日 時	11月5日(土) 11時30分～21時00分
場 所	吹田市立千里南公園
主 催	千里キャンドルロードプロジェクト
参加者数	40名(学生スタッフ33名、本学学生7名)
内 容	キャンドルデザイン案の作成、キャンドルを入れる紙コップの色付け、キャンドルの設置・点火・見回り・片付け

### 企画学生の声

- ・「ここ(関大の作品)すごい!」「ここがメインやね。」などと、来場した方からの嬉しい言葉をたくさん耳にしました。準備は大変でしたが成功して良かったと思えた瞬間でした。
- ・スペースの問題もあり、当日にデザインの変更をしましたが、とても上手に完成させることができて達成感がありました。学生スタッフの参加人数がとても多く、学生スタッフの交流の場となっていたのも良かったです。

### 参加者の声

- ・楽しそうだったので参加しました。みんなで一つのものを作れていい経験になりました。(経済学部・3年次生)
- ・学園祭期間で授業がなく時間が空いていたこともあり、参加を決めました。想像していた以上にキャンドルに灯をともした光景が綺麗で、また、地域の人達にも満足していただけたようでやらいを感じました。(法学部・2年次生)



キャンドルを設置している様子



キャンドル完成の様子



集合写真

## ⑱ 大阪マラソン2023給水ボランティア

今回で11回目の開催を迎える大阪マラソンは、チャリティ文化の普及を目指す日本最大規模の都市型市民マラソンである。本学は第1回大会からオフィシャルスポンサーとして参画している。

活動を通して本学学生が大阪を盛り上げるとともに、ボランティアの楽しさややりがいを感じてもらう機会とすることを目的として実施した。

当日は、本学学生が給水ボランティアとして携わり「みんなでかける虹。」というスローガンのもと、29,285人のランナーをサポートした。給水や応援を通してランナーの方と関わり、参加した学生にもよりボランティア楽しさやスポーツの魅力を感じてもらえる活動となった。



日 時	①事前説明会：2月15日（水）13時00分～14時30分 ②活 動：2月26日（日）7時30分～12時00分
場 所	①千里山キャンパス第2学舎4号館BIGホール100 ②大阪マラソン第1給水所（5 km地点／中之島・本町ブロック）
参加者数	191名（学生スタッフ22名、本学学生58名、体育会所属学生108名、職員3名）
内 容	①活動の事前説明、ボランティアセンターの紹介 ②給水所でのランナーへの給水提供

### 参加者の声

- ・中学校の頃からマラソンに興味があり、実際に見てみたかったので参加しました。ランナーの皆さんが一生懸命走りつつも、僕らボランティアに「ありがとう」と声を掛けてくれたことがすごく嬉しかったです。（環境都市工学部・2年次生）
- ・2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になってしまったので、今回は絶対に参加しようと決めていました。関西大学の多くの学生が大阪マラソンという大きなイベントに携われて、盛り上げることができ良かったです。（システム理工学部・2年次生）



給水活動の様子



給水活動の様子



集合写真

## ⑩ 飛鳥ハーフマラソン2023給水ボランティア

関西大学と縁の深い奈良県明日香村で開催される飛鳥ハーフマラソンに2021年度に引き続き2022年度も学生ボランティアをいう形で参加した。本学学生が学生ボランティアとして参加することで地域貢献活動に寄与するとともに、ボランティア経験の浅い学生に対してボランティアのやりがいや魅力を広めることを目的として実施した。

明日香村は「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」として世界遺産登録をめざしており、その構成資産の半分以上を巡ることができるようにコースが設定されている。また、持続可能な社会づくりのためにソフトフラスク（折りたためる携行給水ボトル）の配布や、参加費等の一部で菜の花のタネを購入して景観保全に役立てるなど、様々な取り組みが行われている。

当日は、スタートからおおよそ11km地点の棚田に設けられた第2給食所で甘酒の提供を行った。

日 時 ①事前説明会：3月1日（水）10時00分～11時30分

②活 動：3月12日（日）8時00分～13時00分

場 所 ①オンライン（Zoom）

②奈良県高市郡明日香村

参加者数 18名（学生スタッフ11名、本学学生7名）

内 容 ランナーへの給水

### 企画学生の声

- ・給水を行っている時、ランナーの方に「ありがとう」と声をかけていただくことができ、ボランティアをしている側の自分たちが元気をもらい、ボランティアに参加してくれた学生に活動を通してやりがいを感じてもらうことができました。
- ・ボランティアに参加していただいた関大生との交流を楽しむことができ、ランナーの方の笑顔を見ることができてとても充実した時間を過ごすことができました。

### 参加者の声

- ・スポーツが好きなので、スポーツに関われるボランティアをやってみたいと思い参加しました。ランナーの方に「ありがとう」と声をかけていただくこともあり、喜んでいただけていると感じられて嬉しかったです。（文学部・1年次生）
- ・もともと給水ボランティアをしてみたいと思っていたので参加しました。ランナーの方と言葉を交わしたり、アイコンタクトを取ることができたりしたことが嬉しかったです。（法学部・2年次生）



給水活動の様子



給水活動の様子



集合写真



## ⑳ 子ども遊びボランティアinまちなかりビング北千里

2022年度初めて企画を募集し、ベストアイデア賞を獲得した「学童保育ボランティア」として、まちなかりビング北千里にて、ソフトバスケット大会（3on3）のお手伝いやボードゲーム・カードゲームを使用した遊び等、子どもとのふれあいを通して、子どもとのかかわり方や距離の縮め方を学び、コミュニケーション能力を向上させることを目的として実施した。

当日はソフトバスケット大会の運営補助だけでなく、子ども達と一緒にチームを組んで参加したり、小学生vs大学生の試合を行い、ソフトバスケット大会を盛り上げた。また、同施設で管理しているボードゲームやカードゲーム等の様々な遊び道具を使用して、ソフトバスケットの参加待ちの子ども達やスポーツが苦手な子ども達と遊ぶ活動も行った。



日 時 3月23日（木）16時00分～18時00分

場 所 まちなかりビング北千里

参加者数 13名（学生スタッフ5名、本学学生8名）

内 容 ソフトバスケット大会の運営補助・参加、子ども達との交流

### 企画学生の声

- ・下見を行った時より子ども達の人数が多かったのにも関わらず、学生ボランティアの方々全員が子ども達と交流をしていただくことができました。活動の最後まで、子ども達と交流することができ、手持ち無沙汰にならなかったことが非常に良かったと思います。また、児童センターの職員さんには行くたびに「来てくれてありがとう。」というお言葉をいただくことができて、嬉しいです。

### 参加者の声

- ・子どもと遊ぶことがボランティアになるのならやってみようと思ったので参加しました。子どもと触れ合う中で、子どもにしかない発想を多く学び、とても楽しく活動することができ、ボランティアに参加して良かったと思いました。（経済学部・1年次生）
- ・子どもと遊びたいと思ったので参加しました。ボランティアに参加した自分が子どもから元気もらい、ボランティアにはこんな魅力もあるんだと実感しました。（大学院・2年次生）



ソフトバスケット大会の様子



ボードゲームをしている様子



集合写真

### (3) 雨天中止事業

#### ① 第4回大和川大掃除～未来につなげよう300人の小さな一歩～

堺キャンパスの近くを流れる大和川河川敷において、各キャンパスの学生、体育会所属学生、ボランティア団体所属学生、大学職員、ミズノ株式会社社員など総勢300名が海につながる河川の環境美化に取り組むことで、SDGsや海洋プラスチック問題などを改めて意識してもらうことを目的として企画したものを。

学生スタッフは設立以来、本学学生にボランティア活動を通じてボランティアの魅力を知らってもらうために、様々なボランティア活動を同じ学生目線で企画・運営してきた。特に河川敷の清掃活動については、2011年度から2016年度まで500名規模で淀川河川敷の大掃除を行い、ゴミの減少に貢献した。2017年度からは大和川河川敷に活動場所を移し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により規模を縮小することもあったが、継続的に清掃活動を行っている。

2022年度は多くの関大生にボランティア活動の魅力を知らってもらうべく、体育会11団体にご協力いただき、コロナ禍前と同規模の300名で実施することを企画した。また、ボランティア活動を通じて双方の充実と発展に寄与するため、本学と連携協定を結んでいるミズノ株式会社にもご参加いただくことになっていたが、残念ながら当日雨天のため中止となった。



日 時 2月19日(日)10時00分～12時00分

場 所 大和川公園河川敷周辺

協 力 大和川河川事務所  
ミズノ株式会社

内 容 大和川河川敷での清掃

### 3 学生スタッフ代表からの一言

ボランティアセンター学生スタッフ代表

2022年度代表 システム理工学部 3年次生 おおまえ ゆうき 大前 友暉

ボランティアセンター学生スタッフ代表の大前です。

私は、高校生の頃からボランティアには興味がありましたが、参加するという一歩が踏み出せず、これまで実際に参加することはありませんでした。高校生の時の私と同じように、興味があっても一歩を踏み出せずに、ボランティア活動に参加したことがない人は多いのではないかと思います。私が初めてボランティア活動に参加したのも大学生になった時でした。最初は「大学生になって何か新しいことをしてみたい!」という気持ちで、思い切ってインターネット上で募集していたボランティアに参加しました。それまでボランティアは「就活の時に自分のアピールポイントになるもの」くらいに思っていたのですが、実際に参加してみて様々な魅力を感じました。活動中に「ありがとう」という言葉をかけてもらい、とても嬉し



い気持ちになりました。また、社会人の方、他大学の学生、高校生との、新しい出会いによってコミュニティが広がり、価値観が広がりました。このような魅力をもっと多くの人に感じてほしいと思い、ボランティアセンター学生スタッフとして活動しています。

勉強もしながら、ボランティア活動の企画・運営にも挑戦して、そして今はボランティアセンター学生スタッフの代表を経験しています。

私は、講座やボランティア活動に参加する理由は何でもいいと思います。友達を遊びに誘うぐらいの感覚で予定が空いているから友達を誘ってボランティア活動に参加する、講座を受講する、ということが当たり前になるぐらい気軽にボランティア活動に参加して楽しんでほしいと思います。何気なく参加した講座やボラ



ンティア活動でも、いずれも自分にプラスの経験となっています。私たち学生スタッフは、多くの関大生に気軽に参加できるボランティアプログラムとして、ボランティア体験ツアーを企画し、誰もが「挑戦」し「経験」できる機会を作り、そのサポートをしています。また、私たち学生スタッフも様々なことに挑戦し、経験することで、日々成長して活動に精進しています。私たちと一緒に、今、一歩踏み出しましょう!



### Ⅲ 学内ボランティア団体について

- 1 学内ボランティア団体への支援
- 2 学内ボランティア団体の活動





## III 学内ボランティア団体について

### I 学内ボランティア団体への支援

学内のボランティア団体として、同好会が4団体、文化会が1団体、準登録団体が2団体それぞれ精力的に活動を行っている。(詳細は61頁参照。)

#### (1) 大学としての危機管理～ボランティア活動保険への加入の奨励～

ボランティアセンターでは学内のボランティア団体(届出団体)及びボランティアセンター学生スタッフ(以下、学生スタッフ)に対して、活動の安心・安全を確保するために、「ボランティア活動保険」への加入を奨励している。大学からボランティア(地域貢献)活動を依頼することもあり、学生の経済的負担を軽減するため、保険加入相当額を助成している。

彼らの活動は学外からも高く評価されており、ボランティアセンターを通して各団体にボランティア依頼が多数寄せられる。2022年度は9件のボランティア依頼を受けた。

助成団体	手話サークル「あっぶる」、児童文化実践サークル「うぶ」、 児童文化研究サークルあかとんぼ、ボランティアサークル「チャレンジャー」、 ユネスコ研究部、学生団体KUMC、WEVO
------	---

#### (2) ボランティア団体ミーティングの実施

ボランティア団体及び学生スタッフとともに定期的にミーティングを実施している。ミーティングを通して、ボランティア活動に関する情報共有をはじめ、ボランティアフェスティバルや新入生オリエンテーション期間に協力して勧誘活動を行うなど、学生団体同士の連携が促進されている。2022年度は、27回実施した。

開催日時	隔週火曜日12時20分～12時50分
場 所	オンライン (Zoom)
参加団体	手話サークル「あっぶる」、児童文化実践サークル「うぶ」、 児童文化研究サークルあかとんぼ、ボランティアサークル「チャレンジャー」、 ユネスコ研究部、学生団体KUMC、WEVO

#### (3) ボランティアフェスティバルの開催

関大生に学内のボランティア団体及び学生スタッフのことを知ってもらうと共に、各団体の新メンバー勧誘を目的として2008年度から実施し、2022年度で15回目となる。

当日は、大型モニターを使用した広報のほか、7つのボランティア団体及び学生スタッフが活動写真などで装飾したブースを出展し、各団体が取り組んでいる日々の活動について紹介した。

連日ボランティアに関心のある学生が多数訪れ、熱心にボランティア団体の紹介を聞いていた。今回のイベントを通して、本学学生に学内ボランティア団体について知ってもらうだけでなく、団体同士で交流を図ることができ、団体同士のつながりという面でも有意義な時間を過ごすことができた。



日 時	4月13日（水）～15日（金）12時20分～12時50分
場 所	千里山キャンパス凜風館1階学生ラウンジ
参加団体	手話サークル「あっぶる」、児童文化実践サークル「うぶ」、 児童文化研究サークルあかとんぼ、ボランティアサークル「チャレンジャー」、 ユネスコ研究部、学生団体KUMC、WEVO
内 容	学内ボランティア団体の活動紹介



ブースで活動紹介をしている様子



ボランティアフェスティバルの様子



ブースで活動紹介をしている様子

#### （４）学外助成金

学外の学生支援組織や社会福祉協議会は、学生のボランティア活動を振興するための助成事業を行っている。ボランティアセンターでは、これらの団体から寄せられる助成事業について学内ボランティア団体に情報提供を行ったうえで推薦し、助成が受けられるように支援している。

2022年度は以下の通り助成を受けた。

助成団体	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
推薦団体	学生団体KUMC
活動内容	「防災啓発」と「ボランティア活動による地域貢献」の2つを活動の軸として、高槻ミューズキャンパスを拠点に活動をしている。千里山キャンパスに通う学生も多数在籍していることから、千里山キャンパスにも支部を置き多岐にわたり活動に取り組んでいる。小学生への防災の出前授業の実施や、防災関連のイベントの参加、防災グッズ作りなどを通して楽しく防災について発信している。
助成額	150,000円
助成団体	一般財団法人 学生サポートセンター
推薦団体	児童文化研究サークルあかとんぼ
活動内容	毎週水曜日に吹田市内にある学童保育へ訪問し、子ども達に人形劇や紙芝居、ゲームなどのプログラムを披露したり、外遊びを通して子ども達と交流を行っている。また、子ども達を招待して劇を披露するイベントも実施している。
助成額	100,000円

## 2 学内ボランティア団体の活動

本学では、社会貢献活動を団体の活動として行っている学生がいる。彼らの活動は、学外からも高く評価されており、ボランティアセンターを通して各団体にボランティア依頼が多数寄せられる。ここでは、団体の活動紹介と活動に関わっている活動者の声を紹介する。

### (1) 同好会

#### ① 手話サークル「あっぷる」

##### 目的

聞こえる・聞こえないに関わらず、楽しむことを大切にしながら、日々手話の学習や手話エンターテインメント（手話歌・劇）などの練習を行っており、手話における表現力とは何かということ意識し、その向上に取り組んでいる。

学園祭では、手話を交えた歌の発表を行うことで手話の普及、認知の向上などを図っている。また、他の大学との交流や、地域のサークルでの活動で実際に聞こえない方と会話することで実践力を高める活動も行っている。

あっぷるマスコットキャラクター



##### 内容

毎週2回、手話の学習会を実施している。手話歌や劇などの発表では、団体として統一感を意識しながら、さまざまな人に活動の成果を見てもらう機会を設けている。さらに、他団体との交流会では活動施設の手配をしたり、手話通訳の依頼に応えたりと、大学外においても活動の幅を広げている。それらの活動を通して、たくさんの人々との出会いや今までにない経験を積むことができるよう取り組んでいる。

(なお、2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの学習会や交流会等を行った。)

##### 主な活動

- ・手話コーラスの動画撮影 ・クリスマス会
- ・まちなかりビング北千里での手話お楽しみ会

部員数 29名



クリスマス会 レクリエーションの様子



淡路島での夏合宿の様子

## 活動者の声

### ・夏合宿

淡路島に2泊3日の手話合宿に行きました。手話合宿、とは文字の通り手話のみでコミュニケーションを図る合宿のことです。普段から活動内では手話を使っていましたが、生活においてずっと使用するの初めての体験で、自分の手話がいかにか拙いものだったか気付かされるきっかけにもなりました。さらに、長い時間一緒に過ごすことで、メンバー同士の距離も縮まり、私自身も新しい友達ができて忘れられない思い出になりました。(社会学部・3年次生)

### ・まちなかりビング北千里での手話お楽しみ会

はじめにご依頼を頂いた際に、幹部で何を行うのか、どんな年齢のお子さんが中心に来てくださるのか、夜遅くまで話し合ったことが印象に残っています。初めてのことに挑戦するために、一致団結できたと思えた出来事です。台風の影響で延期になってしまい、実施出来たのは幹部の代替わりをした後でしたが、それまでに話を進めることができたのが、イベントの成功につながったのではないかと思います。(社会学部・3年次生)

## 代表者の声 (社会安全学部・3年次生・吉田 颯樹<sup>よしだ さつき</sup>)

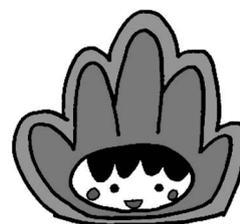
2022年度のあっぷるは、2021年度よりも一層コロナ禍前の通常活動に則したイベントを行うことができました。根拠は2点あります。まず、手話合宿の開催です。世間における感染者数の増加から中止も危ぶまれましたが、ワクチン2回以上接種あるいはPCR検査の陰性証明の提出の義務化、現地の保健所の場所などを記した緊急時対応マニュアルの作成など、感染対策に気を配ることで無事終えることができました。もう1つは、学外の図書館から依頼を受けてのイベント開催です。しかしこちらは開催日に台風が直撃したことで中止となりました。図書館側のご厚意で別日を提示していただきましたが、中止の判断をギリギリにしてしまったことが反省点でした。2023度以降のあっぷるではメンバー同士の健全な交流を通してより活動を盛り上げていってもらえることを切に願っています。

## ② 児童文化実践サークル「うぶ」

### 目 的

吹田市内の学童保育学級に通っている小学校1年生から4年生を対象とし、子どもたちと年齢の近い私たち大学生が関わることで普段接している指導員の方が見ることのない一面を引き出すことができる。そして私たちが子どもの見本となる行動を、子どもの成長に携わることを目的としている。また、子ども達に“楽しい”を共有することも目的とする。

うぶマスコットキャラクター



ばんぐーちゃん

### 内 容

吹田市にある小学校に放課後訪れ、子ども達と遊んだり、宿題をしたり、自分たちで考えたプログラムを発表したりと学童保育を中心に行っている。プログラムでは、紙芝居やペープサート、ゲーム等、毎週違うプログラムを組み立てて、子ども達に楽しいを届けている。

## 主な活動

- ・吹田市夢つながり未来館主催「夏祭り」 ・学童保育
- ・関西大学フェスティバル ・ゆいぴあ DE SDGsプロジェクト

部員数 23名



ペットボトルボウリングで遊んでいる様子



子ども達に向けて紙芝居をしている様子

## 活動者の声

- ・学童保育

毎週違う小学校に訪問し、毎回違うプログラムを行うので、新しい刺激を受けます。子ども達は好奇心旺盛で、すぐに話に来てくれて、すぐ打ち解けることができます。子ども達の笑顔を見ることができて、とてもうれしい気持ちになりました。ゲームの内容が子ども達にとって、少し合わないこともあり、試行錯誤しましたが、それも新しい発見で、子ども達のことを知っていくことができるので、とてもためになります。(社会学部・2年次生)

- ・ゆいぴあ DE SDGsプロジェクト

一から子ども達が楽しく遊べる場所を作っていました。何をテーマにするのか、どんな遊び場にするのか、アイデアを出すことは大変でしたが、一から仲間と作り上げていくことが楽しかったです。家で作れるものは作り、4日間でアイデアを出し合い、作り直しながらも、一気に作り上げました。思ったよりも壮大な遊び場ができて、達成感が得られました。子ども達に楽しんでもらえるような場所が作れて、いい経験だったと感じています。(社会学部・2年次生)

## 代表者の声 (法学部・1年次生・中山 聡)

2022年度のうぶの活動としては、大きな成功を収めたのではないかと思います。その理由として2点ほど挙げられます。まず1点目は、学童保育を2021年度よりもたくさんの学級に訪問させて頂けたからです。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で訪問が厳しくなり、うぶとしても満足のいく活動はできなかったが、2022年度の活動では、紙芝居やペープサートといったプログラムをたくさんの学級で行うことができました。

次に2点目としては、学童保育や他の施設でプログラムを行なった際の子どもたちの笑顔であったり感謝の言葉を頂けた所だと思っています。

うぶのメンバーもこぞって活動をしてよかったと口を揃えて言っていたので、お互い良い時間を共有できたのではないかと思います。

そして2022年度は、2021年度の活動を通して、良いところはより良くしていき、反省すべきところはメンバー同士で話し合いをして、良い活動に繋げて行けるように心がけていきたいと思えます。

### ③ 児童文化研究サークルあかとんぼ

あかとんぼマスコットキャラクター

#### 目 的

小学校の学童保育への訪問や子どもに関する地域行事への参加を通し、子ども達と交流することで「いつもとは違う有意義な体験」を子ども達に楽しんでもらうことを目的とする。



ピロンくん

#### 内 容

例年毎週水曜日に吹田市内の小学校の放課後児童クラブを訪問し、紙芝居・人形劇を披露したり、野外で子ども達と一緒に遊んだりする活動を行っています。他にも、児童厚生施設や地域の商店街、商業施設などから依頼を受け、より多くの子ども達に楽しんでもらえるよう、多種多様な活動に取り組んでいます。

(※定期的な学童訪問について、2022年度前半は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止していましたが、その後は再開しました。)

#### 主な活動

- ・夏季研修会 ・おばけまつり ・段ボール工作イベント ・まちFUNまつり
- ・商業施設における紙芝居、人形劇講演 ・チルドレンコンサート ・節分イベント

部 員 数 44名



五月山児童文化センターでのアウトドアクッキングの様子



イズミヤ千里丘店での紙芝居の様子

#### 活動者の声

##### ・学童訪問

コロナ禍が落ち着くにつれて、吹田市内の学童を訪問させていただけるようになりました。子ども達の前で、紙芝居や人形劇を披露することは、子ども達の元気な反応や笑顔が見れ、私たちも充実した時間を過ごすことができました。また、外遊びも再開し、鬼ごっこやドッジボール、サッカーなどたくさんの遊びを行いました。みんな積極的に誘ってくれたことや名前を覚えてくれたことが嬉しかったです。(商学部・3年次生)

##### ・チルドレンコンサート

2022年度もチルドレンコンサートは演劇の様子を収録し、動画として子ども達に届けました。今までより動画の編集に更に力を入れようということで、本格的にカット割りなどに工夫を凝らして撮影に臨みました。編集後のイメージを考慮しながらの撮影だったので苦戦するも、皆で試行錯誤しながら遂に動画を完成させ、プレゼントと一緒に学童教室に配布できました。

その後の学童訪問で、そのプレゼントが教室に飾られているのを見つけたり、「動画観たよ。」と子どもに言われた時は嬉しかったです。(システム理工学部・3年次生)

代表者の声 (政策創造学部・3年次生・中村 泰地<sup>なかむら たいち</sup>)

あかとんぼにとって、2022年度は「激動の年」と括ることが出来ます。予てからのコロナ禍による悪影響が軽減され、後期から定期的な学童訪問を再開し、更に例年よりも極めて積極的に紙芝居や人形劇の公演活動を推進しました。「一刻も早く、寂しがっているであろう子ども達に会って笑顔にしたい」という強い思いで、度々活動参加者が不足する事態に陥りそうになりながら、2022年度は従来よりも全体として盛んに動きました。

この方針は試行の意味もあったことから、団体としての課題点を多数認識できました。2022年度は我々あかとんぼにとって大変意味のある年度であったと感じます。2023年度からも得られた知見や要領を活かしていき、向上心を失念せずに、団体の繁栄と「子ども達を楽しませる」という団体目的の達成を常に追い求めてまいります。

#### ④ ボランティアサークル「チャレンジャー」

##### 目 的

視覚特別支援学校や障害者福祉施設のイベントに、ボランティアとして参加することによる社会貢献を目的としている。また、普段接する機会の少ない障がいのある方との関わりを通して障がいに対する理解を深め、私たち自身も成長することを目指している。

##### 内 容

ヘルパーさん立会いのもと、視覚特別支援学校での行事における手引きやサポート、障害者福祉施設「ゆうゆう会」での行事における車いすでの移動や食事介助などのお手伝いを行うことが主な活動内容である。また、子どもとふれあうボランティアも行っている。

##### 主な活動

- ・まちをつくろう  
※「まちをつくろう」とは、ダンボールを使って“まち”をつくる夏休みの小学生向けワークショップ。
- ・風船バレー ・ゆうゆう会の行事補助

部 員 数 50名

##### 活動者の声

- ・風船バレー

月に1～2回、障がいがある方々と風船バレーを実施し、楽しく体を動かすという活動を行いました。2020、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で長期的に活動できなかつたこともありましたが、2022年度は比較的継続して活動を行うことができました。活動をしていくなかで、人によって障がいの程度が異なるためサポートの内容も様々であることに気がきました。そして、この気付きから臨機応変に対応することの重要性を学ぶことができました。(文学部・4年次生)

チャレンジャーマスコットキャラクター



チャレンジャーマン

## ・ゆうゆう会

毎月1回、身体や脳に障がいがある会員さんとともに、お出かけやレクリエーションなどを通じてコミュニケーションを行いました。2020、2021年度と新型コロナウイルス感染症の拡大により活動ができない日々が続いていましたが、2022年度はコロナ前の活動を再開することができました。また、大阪大学の学生と協力してレクリエーションやお出かけの準備を行うことで、自力で手足を動かすことが難しい会員さんとお母さま方、ヘルパーさん、ボランティア学生全員が楽しめるようにするためにはどうすればいいのかを考え、企画する力を身につけられました。お出かけの際は、常に安全に気を配ってはいるものの、車いすの移動にはまだまだ不便なことが多いのだな、と新たな視点で物事を見ることができるようになりました。(法学部・3年次生)



ゆうゆう会 箕面の滝へのお出かけの様子



風船バレーの様子

### 代表者の声 (法学部・2年次生・<sup>よこたに みつほ</sup>横谷 光保)

活動休止が続いていた2021年度当初は、活動によって生まれた交流やサークルのみんなとの関わりが薄れていくことへの漠然とした不安感がありました。しかし2022年度は新型コロナウイルス感染症の拡大による一時活動休止が数回あったものの、今まで行ってきた活動をかなり再開することができたので、改めて対面で活動できることの喜びを感じました。2023年度は多くの学生が継続して活動に参加してくれているので、役職の人数を増やし、サークルを運営してもらいたいと考えています。また、Twitterの情報を見て、チャレンジャーに入会する学生が多いことを受け、新たにInstagramも活用していき、広報にも力を入れてくれたらなと思います。2023年度は新しい役職者が伸び伸びと活動できるように、私はサポートに回り、チャレンジャーの活動を支えていけたらなと思います。

## (2) 文化会

### ① ユネスコ研究部

#### 目 的

ユネスコ憲章にある「心の中に平和の砦を」という理念に則り、主に子ども達との交流を中心としたボランティア活動を行っている。子ども達に、普段あまり関わることのない大学生との交流を通じて、異世代交流の楽しさや集団行動の大切さを学んでもらうことが目的である。また、子ども達との交流により、部員が行動力や責任感を培い、新たな成長に繋げていくことも目的の一つである。

ユネスコ研究部マスコットキャラクター



ゆねもん

## 内 容

吹田市在住の子ども達と月に一度交流する「スクール」を中心に活動している。「スクール」では運動や料理、工作などをしたり、遠足やキャンプなど遠くに出かける活動も行ったりしている。

その他には、吹田市を中心に地域イベントの運営補助や企画、子ども会で行うイベントの運営補助などのボランティア活動にも取り組んでいる。

## 主な活動

・スクール ・スクールキャンプ ・片山地区こども会連合協議会イベント

部 員 数 43名



スクールの帰り道の様子



スクールで大縄跳びをしている様子

## 活動者の声

・スクール

スクールは我が部にとってメインとなる活動です。吹田市の小学生と公園でドッチボールや鬼ごっこなどを行ったり、室内でビンゴ大会や工作などで遊び、小学生との交流を深めました。一見すると、大学生が小学生と遊んであげているように見えますが、実際は私たち大学生が小学生から様々なことを学んでいます。小学生ならではの斬新な発想や成長に伴い忘れてしまう意見が衝突した時の誠実な対応など挙げきれないほど沢山の学びをスクールによって得ることができます。小学生と関わることや体験を通じて学ぶことに興味のある方にはぜひ参加していただきたい活動です。(経済学部・3年次生)

・スクールキャンプ

2022年度は京都府立るり溪少年自然の家に1泊2日でスクールキャンプを行いました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で数年ぶりの開催となり、スクールキャンプを経験したことのある部員がいなかったため、苦勞することもありました。しかし、焼き板体験やキャンプファイヤー、野外炊飯など小学生と大学生が共に自然を満喫することができました。キャンプを楽しみに参加してくれた小学生や大学生を信頼してお子様を預けてくださった保護者の期待に応えることができた2日間であったのではないかと思います。(経済学部・3年次生)

代表者の声 (文学部・3年次生・佐藤 竜太<sup>さとうりゅうた</sup>)

「With コロナ」の中で始まった2022年は、まさに再始動の年といえます。

「大学生がサポートする子ども達の新たなコミュニティ作り」を2022年度の理念とし、まずは新入部員の確保に取り組みました。結果的には20名以上の部員が加入してくれました。

新入部員を含めた部員間の関係作りに取り組み、部会等も行った事が参加した子ども達と信頼関係を築く事につながり、2023年度の継続参加にも大きく寄与したと考えます。

数年ぶりに開催した夏季スクールキャンプ・学園祭模擬店に関しては、これまでの形式に捉われず、円滑な実施に重点を置いた活動としました。

新たにSNSの活用を意識しました。Instagramは広報面で入部希望者を多く獲得する要因となり、公式LINEは保護者との連絡ツールとして大いに活躍しました。

最終的には今後活動していく上での土壌を作れたと思います。

### (3) 準登録団体

#### ① 学生団体KUMC

##### 目 的

主に、高槻・吹田地域の住民や子ども達を中心として、地域に向けて防災に関する情報を発信し、地域全体の防災意識の向上に貢献することを目的として、地域密着型の防災啓発活動を展開している。そして、実際に災害が起こった時に、自分たちが伝えたことが活かされることを目標にしている。また、地域のお祭りやイベントなどにおいて、企画運営や警備のボランティアなどに参加することで、地域振興のお手伝いをするなどの活動にも取り組んでいる。

KUMCマスコットキャラクター



くまっく

##### 内 容

地域の小学校における防災授業や図書館での防災絵本の読み聞かせなどさまざまなイベントに参加し、防災の知識を楽しく学んでもらえるよう取り組んでいる。また、活動では自作のパワーポイントやゲームを取り入れ、より楽しく知識を学んでもらえるような工夫をしている。

地域貢献活動として、高槻市、吹田市などを中心にさまざまなイベントにボランティアとして参加し、毎年春と冬には、学習の一環として東北地方を訪れ、語り部さんからお話を聞くなどして震災とその復興について学んでいる。

##### 主な活動

- ・高槻ジャズストリート ・チャリティショップ ・すいたEXPO
- ・万博フラワーカーペット ・東北ツアー ・淀川・芥川クリーンアップ大作戦

部 員 数 846名



吹田フェスタ集合写真



京都市市民防災センターで体験している様子

## 活動者の声

## ・すいたフェスタ

半年以上かけて企画運営をする実行委員に約20名、当日ボランティアに約100名以上が参加しました。内容は、模擬店やスプラッシュパーティー、スカイランタン、学生ステージ企画の手伝い等です。自分たちが楽しんでボランティアに参加して盛り上げることで、来場して下さった方々もとても楽しんでくださいました。特に模擬店のスライムやミサンガ作りでは、子どもに1対1で教えてあげて、一生懸命作ってくれている姿が可愛くて癒されました。(社会学部・3年次生)

## ・東北ツアー

新型コロナウイルス感染症拡大のため、例年からなかなか実施することができなかった東北ツアーを、2022年度の春(3月)に、4年ぶりにやっとの思いで実施することができました。ツアー内容としては、震災遺構である小学校や伝承館を訪問し、現地の方のお話を伺いながら学習しました。

このツアーでは、実際の被災地を訪れて、災害に対する新たな学びや発見、また、直接肌で感じることの大切さなどを体験することができました。2023年度も3月に実施する予定です。(社会学部・3年次生)

## 代表者の声 (社会学部・3年次生・福田 優々花)

新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着くとともに、徐々にコロナ禍以前のような活動ができるようになった1年でした。2022年も2021年に引き続き、エコカフェ NAZのチャリティーショップやしゅくだいカフェ等同じ団体から依頼をいただくことができ、コロナ禍を通して地域の方々と関係性を築くことができました。また、KUMCの主な活動であるすいたフェスタと東北ツアーを3年ぶりに実施することができ、コロナ禍に入学した私たちも、KUMCについて、より理解が深まる年となりました。東北ツアーでは、小学校や学内での防災授業を例年よりも多く実施しました。2022年度は、過去最高の部員数となり、大規模なボランティア活動に興味を持って入会してくれた人が多いので、安定してボランティアを依頼していただけるように参加者の確保や地域とのコミュニケーションにより一層尽力したいです。

## ② WEVO

## 目 的

ボランティア活動を行う楽しさを知る。そして、ボランティアを通じて人と人、人と社会とのつながりについて学ぶ。また、地域の方との交流を深め、1つの団体として、地域社会の輪の中に入る。そして、福祉施設や、団体と協働して行う活動を通じて、今、起きている問題や、取り組みなどを学び、自分たちには何が出来るのかについて考えることを目的とする。

## 内 容

主な活動は、社会福祉法人・堺福社会・ハートピア堺での子ども食堂への参加、80代、90代を対象とした英会話教室である。2022年度は高齢者を対象として英会話教室を月1回オンラインを活用して実施し、子ども食堂は不定期で実施した。

また、小さな森の学童での子ども食堂にも参加した。住吉総合福祉センターでは、障害者余暇支援センターじらふでの水遊び活動(8月)やグループホームに住んでいる障がいがある方との交流(月1回)を実施した。そして、WEVOからの企画として、大学を小学生に案内する大学冒険ツアーと、堺市立熊野小学校のびのびルームで春祭りを実施した。

WEVOマスコットキャラクター



ういにゃん

### 主な活動

- ・高齢者を対象とした英会話教室 ・子ども食堂
- ・グループホームに入居している障がいがある方との交流活動
- ・高齢者虐待防止啓発活動での動画作成

部員数 83名



堺キャンパス祭模擬店の受付の様子



高齢者虐待防止啓発動画作成の打合せの様子

### 活動者の声

- ・特別養護老人ホームハートピア堺での英会話教室

このボランティア活動は毎月テーマを2つ決めてパワーポイントを作成し、それを使用して簡単な英単語や文章を特別養護老人ホームハートピア堺の利用者と一緒に勉強している活動です。初めはZoomで高齢者と交流するということで緊張や戸惑いもあったが、毎月行っていると、幅広い分野の英語やクイズなどで交流することができました。参加してくださっている方の学生時代のお話を聴いたり、私たちが教えるだけでなく、日本語を教えてもらったり、お互い勉強になっていると感じています。(人間健康学部・3年次生)

- ・小さな森の学童での子ども食堂

このボランティアは2022年から始まりました。毎月1回地域の子供達との交流をすることが主な活動内容である。ご飯を一緒につくって食べて、食育にも重きを置いているので、子供達に食について知ってもらう機会にもなっています。2022年度は徐々にではあるが、活動も定期的に行うことができました。子供達と交流することで学校で流行っていることや好きなことを聞いたりすることができ、一緒に楽しい時間を過ごすことができています。(人間健康学部・3年次生)

### 代表者の声 (人間健康学部・2年次生・七野 由佳梨)

2022年度は、コロナ禍で思うように活動することができなかった悔しさから、徐々に規制が緩和され、様々な活動の幅を広げることができました。また、ボランティア活動を通して人との繋がりができ、他の活動に広げることができました。今までは定期の活動を行っていたが、自分たちから様々な人と関わり、企画し実行する活動をしたことで、新しい考え方や価値観を知ることができました。そして、一つのことを創り上げる楽しさを知ることができました。

また、サークル内の改革を行い、皆で参加する・協力する考え方に徐々に変えることができたように思います。実際2021年度より、ボランティア活動への参加者が増えていることも成果の一つです。反省点としては、他学年同士の交流が少ないことです。もっとたくさんの人が関われる機会を作るように今後もメンバーで考えていきたいと思っています。

## IV 広報活動





## IV 広報活動

ボランティアセンターでは、関大生にボランティア活動の魅力を伝えるために次の広報活動をおこなっている。

### (1) Webサイト

2019年度に関西大学ボランティアセンターホームページは、スマートフォン対応に伴いリニューアルを行った。加えて、外部のボランティア団体の団体登録や学生ボランティア団体への依頼に必要な手続き書類をWeb上でもできるようになった。

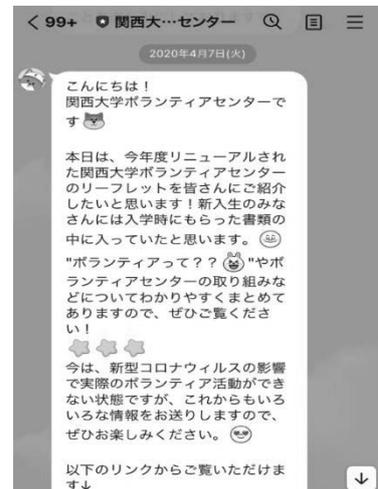
ボランティアセンターホームページでは、タイムリーな情報を発信し、ボランティア参加につながるように心がけている。

※過去の活動報告書や機関誌「Volury(ボラリー)」は、関西大学ボランティアセンターホームページにも掲載しております。右記QRコードからアクセスしてご覧ください。



### (2) 公式LINE

2019年度より関西大学ボランティアセンター公式LINEの運用を開始した。ボランティア体験ツアーの紹介や、各種講座の案内など最新情報を配信している。また、ボランティアセンター主催事業への参加申込みにはGoogleフォームを活用したオンラインでの受付となり、公式LINEからボランティアセンター主催事業の参加申込フォームへのアクセスを可能とした。登録者数550名(2023年3月31日現在)



### (3) 公式Instagram

2019年度より関西大学ボランティアセンターは公式Instagramの運用を開始した。学生スタッフの活動内容や講座の様子、ピア・コミュニティ、学内ボランティア団体の紹介などを幅広く投稿している。活動中の笑顔を中心とした楽しさが伝わる写真を投稿して、ボランティア活動に対するハードルを下げ、気軽にボランティア活動に参加してほしいという想いを込めている。フォロワー数624名（2023年3月31日現在）



### (4) ボランティアセンターリーフレット

本学学生を対象として、2010年度よりボランティアセンターリーフレットを配布している。

紙資源削減および新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2022年度の新入生へはPDFファイルでの配布となった。



### (5) クリアファイル

2008年度から学生スタッフがコンセプトとデザインを考えて作成しており、配布したクリアファイルを受け取った学生が日常的に使用することで、ボランティアセンターの認知度向上に繋がっている。

日常生活で利用しやすいA4サイズで作成していたが、2022年度は活動時にも持ち運びしやすいA5サイズのクリアファイルを作成した。デザインは『#KUvolunteer』をテーマとした2019年度のものを採用した。



### (6) うちわ

2019年度の新たな取り組みとして小型のうちわを作成した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため配布できずにいたが、2022年度からは講座やボランティア体験ツアーの場で配布している。



## (7) 機関誌「Volury (ボラリー)」の発行

ボランティアセンター職員と学生スタッフが編集委員となって作成している。職員はアドバイスと校正を中心に行い、学生スタッフの自主性を引き出せるように支援している。

### ➤ 「Volury」Vol.42

2022年5月発行（500部）。

新入生向けにボランティアセンター及びボランティアセンター学生スタッフの紹介をした。また、春のボランティアWEEKに向けて、予定しているボランティア体験ツアーのおすすめポイントも紹介した。

### ➤ 「Volury」Vol.43

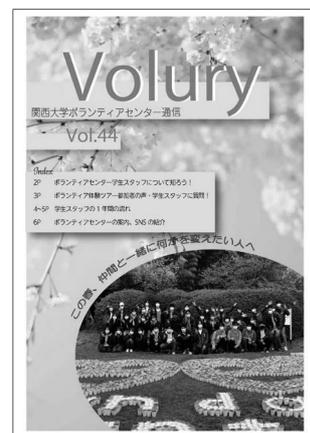
2022年9月発行（600部）。

42号の4ページから6ページへとページ数を増やし、秋からのボランティア体験ツアーについて紹介した。また、ボランティア診断や多くの参加者の声を掲載し、読んでいて楽しくなるように工夫を凝らした。

### ➤ 「Volury」Vol.44

2023年3月発行（2000部）。

43号と同じく6ページで、新入生に向けてボランティア体験ツアーの質問や、学生スタッフの1年間の活動を紹介した。また、春に参加できるボランティアとしてボランティアWEEKについても紹介し、新入生のボランティア参加を促すよう工夫を凝らした。





# V 資料





## V 資料

## ボランティアセンター内規

制定 平成17年4月28日

## (趣旨)

第1条 この内規は、関西大学学生センター規程（以下「規程」という。）第12条第2項の規定に基づき設置するボランティアセンター（以下「センター」という。）の運営等に関して必要な事項を定めるものとする。

## (目的)

第2条 センターは、関西大学（以下「本学」という。）学生の社会参画活動を支援することにより、学生の自主性及び社会性の涵養に資することを目的とする。

## (事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) ボランティアの相談に関すること。
- (2) ボランティア情報の収集及び提供に関すること。
- (3) ボランティア講習会に関すること。
- (4) 関係行政機関、学外ボランティア団体等との連携・協力に関すること。
- (5) その他ボランティアに関すること。

## (登録)

第4条 センターの利用を希望する学生は、登録するものとする。

## (センター長)

第5条 センターにセンター長を置き、学生センター所長をもって充てる。

## (ボランティア連絡協議会)

第6条 センターにおけるボランティアの基本方針、具体的活動内容等を協議するため、規程第12条第2項の規定によりボランティア連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、次の者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 学生センター副所長 1名
- (3) 専任教育職員のうちから学長が指名する者 若干名
- (4) 学生サービス事務局長
- (5) 学生サービス事務局次長
- (6) ボランティア活動支援グループ長
- (7) 事務職員（ボランティア活動支援グループ・高槻キャンパス事務グループ・高槻ミューズキャンパス事務グループ・堺キャンパス事務室）若干名

3 協議会の議長は、センター長とし、副議長は議長の指名による。

4 第2項第1号、第2号及び第4号から第6号までに規定する委員の任期は、役職任期中とする。

5 第2項第3号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

6 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

7 協議会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(学生スタッフ)

第7条 センターに、学生スタッフを置く。

2 学生スタッフは、第3条に規定する事業に参画し、本学学生のボランティア活動を支援するものとする。

(事務)

第8条 ボランティアに関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

(補則)

第9条 この内規に定めるもののほか、ボランティアに関し必要な事項は、協議会の議を経て定める。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この内規(改正)は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附 則

この内規(改正)は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規(改正)は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

1 この内規(改正)は、平成26年4月1日から施行する。

2 この内規(改正)施行の際、第6条第2項第3号により選出される委員の任期は、同条第5項の規定にかかわらず、平成26年9月30日までとする。

附 則

この内規(改正)は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この内規(改正)は、2019年10月1日から施行する。

## 関西大学ボランティアセンターにおける ボランティア団体の紹介に関する方針

2007年1月11日

関西大学ボランティアセンターでは、以下に該当するボランティア団体の活動を紹介します。

- 1 公益性・公共性が高い活動
- 2 営利を目的としない活動
- 3 活動にあたり、安全性が高いと判断される活動
- 4 受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った対応をする団体における活動

### (1) ボランティア募集の受付

- ① 初めてボランティア活動を募集する団体は、「団体の責任者の名刺」、「組織概要がわかるパンフレット等」および「ボランティア募集チラシ（A4サイズに限る）」を持参のうえ、来室をお願いします。（教育委員会等の公共的機関の場合はこの限りではありません。）
- ② 来室時に所定の「ボランティア団体登録用紙」に記入をお願いします。
- ③ ボランティア募集团体には、必要に応じて、規約、役員名簿、収支報告書、活動報告等の団体の実績がわかる書類等の提出をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。
- ④ 学生等がボランティア活動を行った際に、募集条件と異なる状況が判明した場合、精神的・肉体的苦痛を受けた場合等には、そのボランティア団体の募集を停止します。
- ⑤ 個人からのボランティア募集は受付いたしません。（地域の社会福祉協議会、大阪ボランティア協会およびその他関連機関へご依頼ください。）

### (2) ボランティア団体・活動の選定基準（以下に該当するものは受付できません。また、この選定基準は受付時のみでなく、活動中にも適用いたします。）

- ① 法令に違反するもの
- ② 公序良俗に反するもの
- ③ 人体に有害なもの、危険が伴うもの
- ④ 政治的・宗教的活動を主たる目的とするもの
- ⑤ 関西大学ボランティア連絡協議会が不相当であると判断するもの

### (3) ボランティア受け入れ団体との申し合わせ

ボランティア受け入れ団体と関西大学ボランティアセンターとは、以下の点を申し合わせ事項として確認します。

- ① ボランティア受け入れ団体はボランティア申込者に対し、活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意のうえ、活動を始めることとする。
- ② ボランティア受け入れ団体は活動を始める前に、オリエンテーション等を実施し、活動に必要な情報や留意点をあらかじめ伝達し、活動が始まった後は、必要に応じて研修・支援等を行うこととする。
- ③ ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととする。
- ④ 学生がボランティア活動を行う際には、あらかじめボランティア保険に加入していることを必ず確認し、未加入の場合は活動させないこととする。

⑤ 次の内容を含む活動については紹介できないこととする。

(ア) 22時以降6時までの深夜早朝活動

(イ) 精神的、肉体的苦痛が心配されるもの

(ウ) 水泳監視、ベビーシッターおよび病人の介護等の人命にかかわることが予想されるもの

(エ) 車の運転

(オ) 本来、有資格者によってなされるべき活動

(4) 免責事項

ボランティアセンターで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、ボランティアセンターでは責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

以 上

## ボランティア活動サポート募金による助成の取扱内規

2022年10月3日

### (目的)

第1条 本募金は、関西大学ボランティアセンター(以下「本センター」という。)が実施するボランティア活動に参加する本学学生を支援するための事業である。

### (取り扱い)

第2条 本助成の取り扱いは、次のとおりとする。

- (1) 原則として、募金を収受した年度の翌年度の4月1日から3月1日までの活動を助成の対象期間とする。
- (2) 収受した年度の翌年度5月に、助成対象の活動及び金額の配分をボランティア連絡協議会で決定する。また、ボランティアセンター長は、当該年度末にボランティア連絡協議会に助成に要した支出の報告を行わなければならない。
- (3) 本センターが主催、自治体等と共催及び連携する事業で、本学学生が行うボランティア活動を助成の対象とする。
- (4) 学生からの申請に基づき、ボランティアセンター長が必要と認める経費の助成を行う。
- (5) 学生が助成金を授受できる期間は、助成対象年度の3月31日までとする。
- (6) 年度末において配分額に残額が発生した場合は、翌年度の当該対象活動に繰り越さず、改めて翌年度に配分する計画に組み入れるものとする。

### (留意事項)

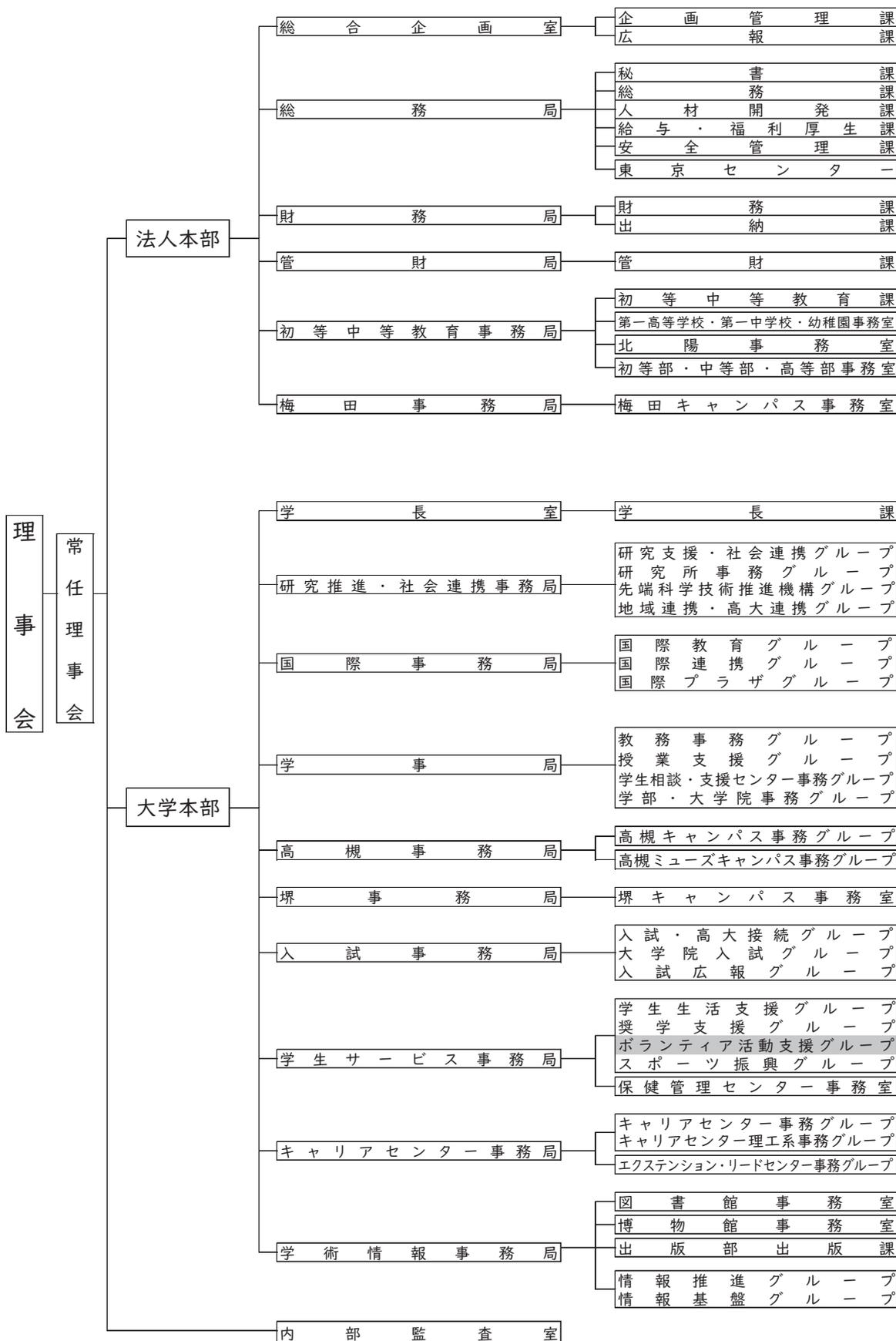
第3条 本助成に係る留意事項は、次のとおりとする。

- (1) 個人の能力・技術向上のためのスキルアップ講座等に係る経費は、助成の対象としない。
- (2) この内規に定めるほか、本サポート募金による助成の取り扱いに関し必要な事項は、ボランティア連絡協議会の議を経て定める。

以 上

# 2022年度事務組織図

(2022年4月1日現在)



## 2022年度関西大学ボランティア連絡協議会委員

2022年4月1日現在

役職・所属	氏名	任期	備考
ボランティアセンター長 (化学生命工学部・教授)	松村 吉信	役職任期中	委員長
学生センター副所長 (経済学部・教授)	石井 光	役職任期中	副委員長
人間健康学部・准教授	福田 公教	2020.10.1 ~2022.9.30	
政策創造学部・准教授	西山 真司	2020.10.1 ~2022.9.30	
システム理工学部・准教授	倉田 純一	2020.10.1 ~2022.9.30	
学生サービス事務局長	鈴木 啓祐	役職任期中	
学生サービス事務局次長	奈須 秀治	役職任期中	
ボランティア活動支援グループ長	古川 弘子	役職任期中	
ボランティア活動支援グループ	新谷 祐希		
	竹村 峻		
	橋野 真歩		
高槻キャンパス事務グループ	中島 貴代		
高槻ミューズキャンパス事務グループ	中村 勇毅		
	小出 翔太		
堺キャンパス事務室	楠田 佳那慧		
	中尾 光		

2022年10月1日現在

役職・所属	氏名	任期	備考
ボランティアセンター長 (化学生命工学部・教授)	松村 吉信	役職任期中	委員長
学生センター副所長 (経済学部・教授)	榊原 雄一郎	役職任期中	副委員長
人間健康学部・准教授	福田 公教	2022.10.1 ~2024.9.30	
政策創造学部・准教授	西山 真司	2022.10.1 ~2024.9.30	
経済学部・教授	柏原 宏紀	2022.10.1 ~2024.9.30	
学生サービス事務局長	鈴木 啓祐	役職任期中	
学生サービス事務局次長	奈須 秀治	役職任期中	
ボランティア活動支援グループ長	古川 弘子	役職任期中	
ボランティア活動支援グループ	新谷 祐希		
	竹村 峻		
	橋野 真歩		
高槻キャンパス事務グループ	中島 貴代		
高槻ミューズキャンパス事務グループ	中村 勇毅		
	小出 翔太		
堺キャンパス事務室	楠田 佳那慧		
	中尾 光		



## VI ボランティアセンター紹介記事





## VI ボランティアセンター紹介記事

2022/04/14 学生生活

### 「ボランティアフェスティバル2022」を開催中

千里山キャンパスで4月13日から15日まで、「ボランティアフェスティバル2022～大きな一歩を踏み出せ、変われ自分～」を開催しています。本イベントは、ボランティアセンターが支援する8つの学生ボランティア団体が、一人でも多くの学生に学生ボランティア団体の活動を知ってもらうことを目的に、2008年から実施しています。

3年ぶりにブースを設置して開催することができた今年は、各学生ボランティア団体が、それぞれの活動内容を伝えるために、ポスターや説明用ガイドなどのPRツールを準備して、ブースを訪れた学生に丁寧に説明していました。

手話サークル「あっぷる」で活動している伊藤純葉さん(社会学部2年次生)は、「たくさんの学生が説明を聞きに来てくれて、ボランティアに興味をもっていることが分かってうれしいです」と話しました。

参加した1年次生の学生は、「大学生になったらボランティア活動してみたいと思っていました。説明を聞いて楽しく活動できそうだなと思いました」と意欲を見せました。

本イベントは明日15日(12時20分から12時50分)も開催していますので、興味のある学生のみなさんはこの機会にぜひ参加してみてください。

☐ [関西大学ボランティアセンターのウェブサイト](#)



## 大学昇格100年記念 関大花植え活動を行いました

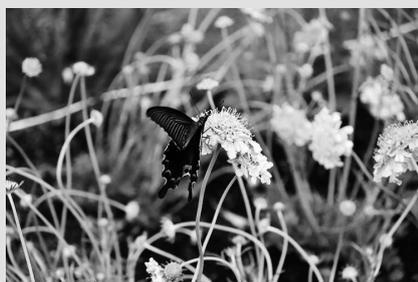
関西大学は6月5日に「大学昇格」100年を迎えます。今から100年前の1922(大正11)年は大学昇格をはじめ、当時の総理事・山岡順太郎による教育・研究活動の基本的理念「学の実化」の提唱、今日まで歌い継がれる「学歌」の制定、現在の千里山キャンパスの開設など、今日の関西大学の礎を築いた年です。

その記念事業の一環として、経済学部と商学部の学び舎である第2学舎1号館前の広場を、山岡順太郎の胸像とともにリニューアルすることとなり、5月13日にボランティアセンターが花壇の花植え活動を行いました。

当日は、小雨が降りしきる中約30人の学生が集まり、汗をぬぐいながら活動に励みました。一生懸命に植えた花には蝶が舞い降り、花々の間を飛び回りました。参加した学生は、「大学昇格100年という記念の年に、初めてのボランティア活動ができてよかったです」「花植えという貴重な体験ができてうれしいです」と話しました。

ボランティアセンターでは学生のみなさんにもっと身近に感じてもらうことを目的に、5月9日～5月15日の期間に「ボランティアWEEK」を開催し、ボランティアに関わる講座や体験ツアーを毎日行いました。

☐ [関西大学ボランティアセンターのウェブサイト](#)



2022/06/04 社会連携

## 「大阪梅田・茶屋町のキャンドルナイト」に本学学生が参加

6月1日、キャンドルの灯がやさしく大阪梅田・茶屋町エリアを包むイベント「1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY 茶屋町スロウデイ2022」が開催され、本学学生が参加しました。

本イベントは、梅田キャンパスが位置する梅田・茶屋町エリアの企業、地域団体、学校および行政が集い、街の連携と賑わい創出を図ることで、茶屋町エリアの新たな魅力を発信することをめざしています。開催中止やオンラインでの実施を経て、3年ぶりに対面での実施となった今回。2017年度から参加している本学は、今年もボランティアセンター学生スタッフを中心に学生有志24人が参加しました。自ら考えてデザインしたキャンドルに、平和への願いと、人の心に安らぎと未来への希望の明かりがもたらされるよう祈りを込めました。

また、初参加となった人間健康学部 福田公教准教授ゼミ生23人は、子どもの笑顔があふれる明るい未来を思い描きながら、家族の絆をテーマにキャンドルを灯しました。

学生らが制作したキャンドルは茶屋町の夜を華やかに包み込み、多くの人々がそのあたたかな灯りに想いを馳せました。

☐ [「茶屋町スロウデイ2022」のウェブサイト](#)

☐ [ボランティアセンターのウェブサイト](#)

☐ [人間健康学部のウェブサイト](#)

☐ [梅田キャンパスのInstagram](#)



以上4枚、ボランティアセンター



以上4枚、人間健康学部・福田准教授ゼミ



2022/07/06

学生生活

## コミュニケーションスキルアップ講座「ほめる達人」講座を開催

ボランティアセンターがコミュニケーションスキルアップ講座「ほめる達人」講座を開催しました。

学生生活を充実させるために欠かせないコミュニケーション力。SNSの普及により匿名で容易に他者を傷つけ、他者との関わり方が希薄になっている昨今、日常生活でお互いを認め合い、ほめる機会が少なくなっています。

本講座は、心の底から相手の良さを見だし、あらゆるものから価値を発見できるノウハウを学ぶべく、6月15日、22日、29日に3回開催し、延べ201人の学生が参加しました。

講師を務めた西村貴好氏(本学卒業生、日本ほめる達人協会理事長)は、相手の存在価値を認め、ピンチをチャンスに転換し、あらゆる人の生き方を変える考え方「目からウロコ」の発想である「ほめ達」の実践方法について講義しました。学生たちは、ペアワークでほめ達を実践し、3回とも非常に盛り上がりを見せていました。参加者は、「人の良いところを見つけることの大切さを改めて知ることができた」「グループワークを通して考え方が身に付き、楽しい上に成長の種をもらった」と感想を話しました。

ボランティアセンターでは、ボランティア活動に関する多彩なプログラムを実施しており、平日の昼休みの時間に、学生スタッフがボランティアコーディネートを務めています。

[☐ ボランティアセンターのウェブサイト](#)



2022/07/14 学生生活

## 災害ボランティアガイダンスを開催

千里山キャンパスで7月6日、ボランティアセンターが災害ボランティアガイダンスを実施しました。

講師の紺屋仁志氏(大阪ボランティア協会)は、冒頭に「災害ボランティアとは、自助・共助・公助でなかなか助けられない時に行う支援のことです。困ったときはお互い様と言う気持ちでみんな活動しています」と話した後、これまでに自身が携わってきた災害ボランティアに触れながら、具体的な活動内容や現地での注意点や心構えなどについて説明しました。

紺屋氏は「ボランティア活動をする時に一番大切なのは、被災された方の目線で考えることです。被災した土地で暮らすみなさんにとっては"被災地"ではなく故郷でありわが街です。"がれき"ではなくご自宅であり、すべてが掛け替えのないものです。被災されたみなさんがそれまでの生活を取り戻せるようお手伝いするんだ、という気持ちが大切です」と呼び掛けました。

また、日頃から小学生への防災授業や東北ツアーなどを行っている学生団体KUMC代表の溝端峻さん(社会安全学部3年次生)が活動紹介を行いました。

☐ [ボランティアセンターのウェブサイト](#)



## 飛鳥光の回廊に本学学生が参加

9月24日、奈良県明日香村で開催された「飛鳥光の回廊2022～明日香をと  
もす「和」のひかり～」に24人の学生がボランティアとして参加しました。

「飛鳥光の回廊」は、本学と明日香村との地域連携協定に基づく事業の一  
環として2011年から開始したもので、明日香村内の代表的な史跡、寺社、施  
設をライトアップし、さらにキャンドルの灯りで光の地上絵を表現するな  
ど、村を光で包む幻想的な催しです。

今年は9月23日が雨天中止となり、24日だけの開催となりましたが、学生  
は村の中心部に位置する川原寺跡を飾るデザインを考え、キャンドルの配  
置と点火などを担当。広大なエリアでキャンドルの配置場所を決め、地面  
が盛り上がっている箇所には手を加えたりしながら準備を続け、「輪」「虹」  
「塔」などをイメージしたキャンドルを並び終えると後は点灯を待つばかり。  
17時30分、キャンドルに灯りがともると、地域住民や観光客は歓声を  
上げるなど盛り上がり、明日香村は一気に幻想的な雰囲気になりました。

ボランティアセンターでは、この他にも学生のボランティア参加のきつ  
かけとなるようなプログラムを用意しています。詳しくは、ボランティア  
センターのウェブサイトをご覧ください。

☐ [ボランティアセンターウェブサイト](#)



2022/10/21 学生生活

## 琵琶湖の特定外来生物の駆除活動を通じて環境を考える

10月16日、滋賀県長浜市の南浜漁港において、「琵琶湖ツーリズム！—大学生で考える環境ボランティアの未来2022(実践編)—」を開催しました。

本事業は、法政大学・明治大学との三大学連携事業として、本学ボランティアセンターの学生スタッフが企画したもので、今年度は滋賀県、長浜市および南浜漁協と連携し、本学と法政大学の学生38人が参加。

琵琶湖の生態系、淀川水系等を守るため、湖に繁殖する特定外来生物ナガエツルノゲイトウの駆除活動を行いました。両大学の学生たちは、胴長靴と長手袋を着用してポートの上から、また湖水につかって葉や茎の断片が残らないように手作業での活動を懸命に行い、併せて学生同士の交流も楽しみました。

学生スタッフの佐々木大輔さん(法学部2年次生)は「今回のナガエツルノゲイトウの駆除活動は、昨年行った活動に比べて規模が大きく、当日は気温が高かったので、とても大変でした。しかし活動を終えた後、駆除したナガエツルノゲイトウの量や、綺麗になった漁港を見て、これまで感じたことのない達成感を得ることができました」と話しました。

今後も同センターでは、ボランティア情報を紹介する「ボランティアコーディネート」やボランティア体験ツアー、講座を開講します。SNSで随時発信される情報をお見逃しなく！

☐ [ボランティアセンターウェブサイト](#)

☐ [ボランティアセンター公式LINE](#)

☐ [ボランティアセンター公式Instagram](#)



## ボランティア体験ツアー「千里キャンドルロード2022」を実施

11月5日、吹田市の千里南公園で「千里キャンドルロード2022」が開催され、本学の学生40人がボランティアとして参加しました。

「千里キャンドルロード」は、2012年に「千里ニュータウンまちびらき50年」事業の一環として始まった、吹田市と豊中市の地域活性化を目的とした光のアートイベントで、今年で10年目を迎えます。

今年度のテーマは「『出会い』これまででも...これからも...」で、学生らは事前に6,000個のキャンドルに色付けを行い、当日は感染予防対策を講じながら、テーマに沿って考えたデザインにあわせて、キャンドルを設置しました。

来場者も共にキャンドルに点灯を行い、会場全体が温かな灯に包まれる中、「すごかわいいデザインね!」などと、たくさんの方から声掛けがありました。ボランティア体験ツアーに参加した学生は、「来場者の方と協力してキャンドルに点灯しながらお話することができました。また、多くの方に私たちが作成したアートを見ていただくことができ、達成感のある1日となりました」と感想を話し、笑顔と元気あふれる1日となりました。

☐ [ボランティアセンターのウェブサイト](#)



2022/11/17 学生生活

## ボランティア体験ツアー「関大クリーン大作戦 in 梅田」を開催

11月13日、ボランティアセンターがボランティア体験ツアー「関大クリーン大作戦 in 梅田」を開催しました。

同センターの学生スタッフは「関大クリーン大作戦」と称し、関大生がキャンパス周辺で気軽に清掃活動に参加できるボランティア体験ツアーを企画・運営しています。「関大クリーン大作戦 in 梅田」は、梅田キャンパス周辺の清掃活動を行うもので、今回は10人の一般学生と学生スタッフ3人が2ルートに分かれて活動しました。

当日はあいにく途中から雨が降り出し、傘をさしながらの活動となりましたが、煙草の吸い殻やペットボトル、缶などを手際よく集め、約2時間でゴミ袋7袋分が集まりました。参加者からは、「ついダラダラしてしまう日曜日の午前中の時間を、他学部の学生と交流しながら社会貢献をする時間として使えて、充実感がありました!」と話していました。関大生にとって、ボランティアが日常的な当たり前のものとなるようぜひ次の一歩にも繋がってほしいと思います。

ボランティアセンターでは、この他にも学生のボランティア参加のきっかけとなるようなプログラムを用意しています。詳しくは、ボランティアセンターのウェブサイトをご覧ください。

☐ [ボランティアセンターウェブサイト](#)



## 法政大学と「スポーツゴミ拾い」を開催

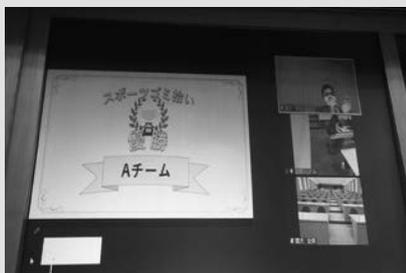
3月13日、関西大学千里山キャンパスにて「関西大学×法政大学 スポーツゴミ拾い」を開催しました。

「スポーツゴミ拾い」とは、企業や団体が取り組む従来型のゴミ拾いに「スポーツ」の要素を加え、今までの社会奉仕活動を競技へと変換させた日本発祥の全く新しいスポーツです。ゴミを点数ごとにわけて、拾ったゴミの総合得点を競います。

今回の行事は、法政大学生と本学ボランティアセンター学生スタッフが共同で企画。総勢23人が、両大学よりオンラインで繋ぎながら活動を行いました。

当日は天気も良く、学生たちは千里山キャンパス周辺の清掃活動を行いました。クイズ大会などの交流を通して、法政大学の学生とも仲を深めることができました。

今後も同センターでは、ボランティア情報を紹介する「ボランティアコーディネート」や同センター主催ボランティア体験ツアー、講座を開講します。SNSで随時発信される情報をお見逃しなく！



KANDAI Topics

関大トピックス

ボランティアの一步を踏み出そう!

関西大学ボランティアセンターでは、春学期に続き、秋学期もボランティアWEEKを開催しました。

期間は10月10日～16日の1週間で、集中的に9種類のボランティア体験ツアーやボランティアに関する講座を実施。この間、延べ約100人の学生が、ボランティア活動を通して大学生生活の新たな一步を踏み出しました。

10月16日に行った明治大学・法政大学・関西大学の三大学連携事業「琵琶湖ツーリズム」では、本学と法政大学の学生が、滋賀県長浜市の漁港で、琵琶湖に生息している特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の駆除活動を行いました。この植物は繁殖力が非常に旺盛で、琵琶湖の生態系だけでなく地域の生活へも被害を及ぼしており、学生たちは実践を通して環境保全について学びました。参加者は初めて特定外来生物の駆除を行いました。駆除する作業がこんなに大変だとは思いませんでした。参加して初めて影響の大きさを実感することが多く、大変勉強になりました。また、活動を通して他大学の学生とも交流することができ、とても楽しかったですとの感想を述べていました。

10月 ボランティアWEEK期間中に行われた活動

- 10(月) 非常食配布活動
- 11(火) ボラcafé(防災)、下校見守り活動(～14日)
- 12(水) 献血呼びかけボランティア、避難所運営疑似体験
- 13(木) 関大グリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう!～、ボラcafé(動物愛護)
- 14(金) 2022ボランティア新企画募集～あなたの想いを伝えよう～(結果発表)
- 15(土) 関大グリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～
- 16(日) 琵琶湖ツーリズム～大学生で考える環境ボランティアの未来2022(実践編)～

関大防災Day2022を開催

10月20日に全キャンパスおよび東京センターで、本学独自の防災啓発行事「関大防災Day2022～広がり! みんなの安全・安心!～」を開催しました。

当日行われた「地震避難訓練」は、授業中にマグニチュード7.6の上町断層直下地震が発生したと想定し、学生、生徒、園児および教職員の避難から誘導、安否確認に至るまでを「地震対応マニュアル」に基づき実施。安否確認シートと個人伝言などを併用して安否確認訓練も同時に行いました。その他にも、地震の揺れを体験する起震車体験、水没車からの脱出体験、千里山キャンパス備蓄倉庫見学ツアーなど、さまざまなイベントを開催して、学生、教職員をはじめ多くの地域住民が、「防災」に対する意識を高める機会となりました。

♪ 音楽を楽しもう -12月開催の演奏会♪

年末にかけて文化会の各クラブは一年の集大成となる発表会を予定しています。今回紹介する発表会は、約半世紀もの歴史のある演奏会です。師走のひととき、心に芸術を楽しむゆとりを持って会場を訪れてみてはいかがでしょうか。

<p><b>混声合唱団ひびき 第54回定期演奏会</b> 12/11(日) 16:30開演(ドンセンターホール)</p>  <p>良い演奏ができるよう団員一同頑張りますので、ぜひいらしてください。伊藤有香(文3)</p>	<p><b>混声合唱団「葦」 第46回定期演奏会</b> 12/17(土) 17:00開演(KUシンフォニーホール)</p>  <p>3年ぶりに有観客で開催いたします。一年の集大成をぜひ皆さんに見ていただきたいです。三好晴日(経3)</p>	<p><b>グリーククラブ 第63回定期演奏会</b> 12/25(日) 15:00開演(他府市民文化ホールエールホール)</p>  <p>12月25日に定期演奏会を実施します!入場料無料なのでぜひぜひお越しください。谷口 泉(環境都市工4)</p>
--	--	--

よもやまばなし 関大人 四方山話 ◆「理想の自分」になるために キャリアセンター事務グループ 春木 成仁



学生の皆さんに質問です。「あなたの夢は何ですか?」。すぐに答えられる人もいれば、つい身構えてしまう人も少なくないのではないかと思います。ある程度大きな理想のことを「夢」というと思いますが、「夢を見つける」と言われてもそんなに簡単ではないですよ。私は大きな「夢」に限らず、例えば「アルバイトで昨日よりも大きな声で接客して先輩に褒められた」「おかずを一品減らしてダイエットに成功した」など、身近なことでも目標をもって努力している人の姿は輝いていると思います。そんな「昨日よりも良い自分」になるうとがんばっている」皆さんを支援するために、我々「大学事務職員」がいます。

例えば私が勤務しているキャリアセンターでは、就職・進路に関する相談対応やセミナーの実施だけではなく、1～2年次生から将来を考えるための支援など、さまざまなサポートを展開しています。大学生活で不安や悩みがあれば、キャリアセンターに限らず、最寄りの事務室を気軽に訪ねてください。皆さんの思う理想についてお話できることを楽しみにしています。

12月号の誌上教室は「情報セキュリティ」をテーマに取り上げました。近年では、オンライン授業が増え、これまで以上にスマートフォンやパソコンが学生生活に欠かせないものとなっています。パスワード管理を怠ることなく、さまざまなサービスを安全に使用してもらえたらと思います。ITセンター作成の「情報リテラシー向上のための動画コンテンツ」には、具体的な事例を題材に、リスク対策などを学べる動画が多数公開されていますので、学生の皆さんにもぜひ視聴していただきたいです。(広報課 鳥田純)

編集後記



**関西大学通信「KANDAI STYLE」**  
発行日:2022年12月1日  
発行:関西大学広報委員会  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
電話:06-6368-1121(大代表)

感染拡大予防策を講じた上で、取材や制作を行っています。

関西大学は2022年に大学昇格100年を迎えました

## 2022年度 活動報告書(第17号)

---

発行日 2023年7月

発行所 関西大学ボランティアセンター  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35  
TEL 06-6368-1229 FAX 06-6330-3703  
E-mail : volunteer@ml.kandai.jp

印刷所 大都印刷株式会社  
〒550-0014 大阪市西区北堀江3丁目6番3号

---



## ボランティア活動サポート募金

関西大学ボランティアセンターは、本学学生の公益に適った社会参画活動を支援することにより、学生の自主性と社会性の涵養に資することを目的として、2005年4月に大阪府内で初めて開設されました。

ボランティア活動サポート募金は、ボランティアセンターが主催・連携する事業等に参加する本学学生のボランティア活動を支援するための募金です。

未来へ繋がる関大生の社会貢献活動を応援いただき、皆さまのご支援を心よりお願いいたします。

### ご依頼金額

1口1,000円

※口数に関係なくお申込みいただけます。

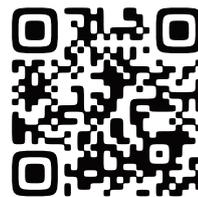
### お申込み・お振込みについて

払込取扱票もしくはインターネットからお申込みいただくことができます。

### 払込取扱票

書面専用の「払込取扱票（振込通知書）」に必要事項をご記入のうえ、銀行振込または郵便振替でお振込みください。

募金趣意書など必要書類は資料請求・お問い合わせページよりご請求いただけます。



資料請求・問合せ



### 関西大学ボランティアセンター

〒564-8680

大阪府吹田市山手町3丁目3-35

TEL: 06-6368-1229

FAX: 06-6330-3703

E-mail: volunteer@ml.kandai.jp



KANDAI for SDGs



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

関西大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

